

平成30年度 社会福祉法人ときわ会 事業報告書(案)

自 平成30年 4月 1日
至 平成31年 3月31日

1. 法人の概況

事務局所在地	: 江南市河野町五十間88番地
電話番号	: (0587) 57-7551
代表者職氏名	: 理事長 大池良平
許可年月日	: 昭和55年12月18日
認可番号	: 厚生省収児第1167号
設立登記年月日	: 昭和56年 1月 7日

2. 法人の行う事業

平成31年3月31日現在

社会 福祉 事業	第一種	施設種別： 障害者支援施設（生活介護・施設入所支援） 名称： ふじの木園(定員50名) 施設長名： 春日井 昌市
	第二種	事業種別： 障害福祉サービス事業（生活介護） 名称： ときわ作業所(定員55名) 施設長名： 滝 正直
		事業種別： 地域活動支援センター（Ⅱ型）【江南市指定管理】 名称： 江南市在宅障害者デイ・サービス施設あゆみ(定員25名) 施設長名： 春日井 裕美
		事業種別： 地域活動支援センター（Ⅲ型）【江南市指定管理】 名称： 江南市中心身障害者小規模授産施設(定員概ね15名) 施設長名： 滝 正直
		事業種別： 障害福祉サービス事業（短期入所） 名称： ふじの木園(定員5名) 施設長名： 春日井 昌市
		事業種別： 障害福祉サービス事業（共同生活援助(介護サービス包摂型グループホーム)） 名称： ときわホーム「ニコット」(定員6名) 施設長名： 滝 正直
		事業種別： 障害福祉サービス事業（特定相談支援） 名称： ふじの木園 施設長名： 春日井 昌市
公益 事業	事業種別： 貸館事業【江南市指定管理】 名称： 江南市在宅障害者デイ・サービス施設あゆみ(定員25名) 施設長名： 春日井 裕美	
	事業種別： 日中一時支援事業 名称： ときわ作業所(定員5名) 施設長名： 滝 正直	
	事業種別： 日中一時支援事業 名称： ふじの木園(定員5名) 施設長名： 春日井 昌市	

3. 職員数

平成31年3月31日現在

施設名	事業名	雇用別		施設長	副施設長	サビ管	看護師	栄養士	相談員	支援員	事務員	介助員	運転手	世話人	計	合計	
		常勤	非常勤														
ふじの木園	生活介護 施設入所支援 短期入所 日中一時	常勤	正規	1 (1)	1 (1)	1	1	2		17 (1)	2				25 (3)	34 (3)	
			契約							1					1 (0)		
		非常勤								8					8 (0)		
	特定相談支援	常勤	正規	1 (1)	1 (1)				2 (1)							4 (3)	4 (3)
			契約												0 (0)		
		非常勤													0 (0)		
ときわ作業所	生活介護 日中一時	常勤	正規	1 (1)		1				7 (7)	1				10 (8)	25 (13)	
			契約							5 (2)					5 (2)		
		非常勤					1 (1)			9 (2)					10 (3)		
ときわホーム	共同生活援助	常勤	正規	1 (1)		1 (1)				6 (6)				※6	8 (8)	14 (10)	
			契約						2 (2)				※1	2 (2)			
		非常勤							※3				4	4 (0)			
小規模	地域活動 センター (Ⅲ)型	常勤	正規	1 (1)						2	1 (1)				4 (2)	6 (2)	
			契約							1					1 (0)		
		非常勤								1					1 (0)		
あゆみ	地域活動 センター (Ⅱ)型	常勤	正規	※1						2	1 (1)				3 (1)	11 (4)	
			契約												0 (0)		
		非常勤					2 (1)			3			3 (2)		8 (3)		

法人事務局	雇用別		事務局長	事務局参事	事務局次長	事務主幹	事業主幹	事業員	事務員						計	合計
	常勤	非常勤	正規	契約	非常勤	非常勤	非常勤	非常勤	非常勤	非常勤	非常勤	非常勤	非常勤	非常勤	非常勤	非常勤
			(1)	(1)	(2)	(1)	(1)	(2)	(3)						0 (11)	0 (11)
															0 (0)	
															0 (0)	

- ・職種の「サビ管」は「サービス管理責任者」の略
- ・職員数の（ ）は他事業所との兼務として再掲
- ・職員数の※は同一事業所内での兼務

4. 主務官庁指示に関する事項（運営）

ア 社会福祉法人等の指導監査（江南市）

監 査 実 施 日	平成30年9月11日
監 査 方 法	実地監査
監 査 対 象 事 項	法人本部（運営・経理）
監 査 実 施 官 庁	江南市健康福祉部 福祉課 地域福祉推進グループ

指 示 事 項	履 行 状 況
平成30年9月19日付 江南市長 澤田和延 30江福第198号 監査対象：法人本部 監査結果：指摘事項なし	

イ 社会福祉法人等の指導監査（愛知県）

監 査 実 施 日	平成30年9月11日
監 査 方 法	実地監査
監 査 対 象 事 項	障害者支援施設 ふじの木園（運営・経理）
監 査 実 施 官 庁	愛知県健康福祉部 健康福祉総務課 監査指導室法人監査グループ

指 示 事 項	履 行 状 況
平成30年10月30日付 愛知県知事 30健福第360-131号 監査対象：ふじの木園 監査結果：指摘事項なし	

ウ 指定障害福祉サービス事業者等実地指導（愛知県）

監 査 実 施 日	平成30年9月11日
監 査 方 法	実地指導
監 査 対 象 事 項	ふじの木園（生活介護・短期入所・施設入所支援）
監 査 実 施 官 庁	愛知県健康福祉部 健康福祉総務課 監査指導室 障害福祉事業者指導監査グループ

指 示 事 項	履 行 状 況
1. 兼務職員の勤務場所・時間が分かるよう適切な記録を残すこと（特定相談支援事業所との兼務職員）	1. 他の事業所及び職種（特定相談支援事業所相談員）の兼務職員については、出勤簿を分けて作成し、出勤時間を明確にするように改善した。

5. 契約に関する事項

平成31年3月31日現在

契約年月日	相手方名称	目的	期間	賃貸料	その他
平成12年 4月 1日	江南市	更生施設用地	30年	無償	申出更新
平成13年 4月 1日	堀場美喜夫	畑	1年	無償	自動更新
平成29年 4月 1日 (平成14年4月1日)	滝敏美	畑	1年	無償	自動更新
平成14年 4月 1日	伊藤昇	畑	1年	無償	自動更新
平成14年 4月 1日	森博一	畑	1年	無償	自動更新
平成19年12月18日	高田大覚	畑	1年	無償	自動更新

6. 寄付金に関する事項

平成31年3月31日現在

寄付の目的	寄付者（敬称略）	件数 件	金額 円
法人本部	匿名	1件	25,388円
	ふくし江南ふれあいまつり実行委員会	1件	41,600円
	中西和子	1件	500,000円
	㈱老番屋	1件	31,100円
	江南市農業まつり運営協議会	1件	25,200円
	江南市ゴルフ同好会チャリティー大会	1件	100,000円
	ときわ会後援会	1件	279,226円
	小計	7件	1,002,514円
ふじの木園	匿名	1件	100,000円
	森内本造	11件	122,000円
	大田暁子	1件	10,000円
	ふじの木園保護者会	3件	4,692,000円
	小計	16件	4,924,000円
ときわ作業所	長谷川豊	11件	118,000円
	仲市美智恵	1件	5,000円
	小計	12件	123,000円
合計		35件	6,049,514円

7. 資産（土地・建物）の状況

平成31年3月31日現在

科目	所在地	地目又は構造	面積		用途	担保提供の状況			抵当権設定 年月日	
			定款	登記簿		提供の有無	提供先	所轄庁の 承認の有無		
基本財産			㎡	㎡						
1 土地	江南市後飛保町高瀬69番	宅地	926.08	926.08		無				
	江南市後飛保町高瀬68番	宅地	260.00	260.00		無				
	江南市河野町五十間115番	宅地	962.00	962.0		無				
	江南市後飛保町高瀬67番1	雑種地	35	35		無				
	江南市後飛保町高瀬67番2	雑種地	57	57		無				
	江南市後飛保町高瀬67番3	雑種地	50	50		無				
	江南市後飛保町高瀬67番4	雑種地	75	75		無				
	江南市後飛保町高瀬67番5	雑種地	31	31		無				
	江南市後飛保町高瀬54番	雑種地	194	194		無				
	江南市後飛保町高瀬55番	雑種地	302	302		無				
	江南市河野町五十間87番	雑種地	321	321		無				
	江南市宮田神町190番	畑	365	365		無				
	2 建物	江南市後飛保町高瀬69番地	鉄筋コンクリート造 陸屋根2階建	900.32	900.32	ときわ作業所	無			
		江南市後飛保町高瀬68番地								
江南市河野町五十間88番地		鉄筋コンクリート造 4階建	2,112.51	2,112.51	ふじの木園	有	独立行政法人 福祉医療機構	平成14年2月28日		
江南市河野町五十間115番地		木造平屋建	257.35	257.35	ときわホーム	無				

8. 理事会開催状況

開催年月日	議 題	監事出席
平成30年 5月28日	<p>議案第1号 平成29年度社会福祉法人ときわ会社会福祉事業区分第3次資金収支補正予算について</p> <p>議案第2号 平成29年度社会福祉法人ときわ会「本部」・「ふじの木園」・「ときわ作業所」・「ときわホーム」・「小規模授産施設」・「あゆみ」の事業報告について</p> <p>議案第3号 平成29年度社会福祉法人ときわ会社会福祉事業区分収支決算について</p> <p>議案第4号 社会福祉法人ときわ会評議員会の招集事項について</p>	有
平成31年 3月15日	<p>議案第5号 社会福祉法人ときわ会評議員の辞任に伴う評議員候補者の選出について</p> <p>議案第6号 社会福祉法人ときわ会評議員選任・解任委員会の招集について</p> <p>議案第7号 社会福祉法人ときわ会理事の辞任に伴う理事候補者の選出について</p> <p>議案第8号 社会福祉法人ときわ会職員給与等支給規程の一部改正について</p> <p>議案第9号 社会福祉法人ときわ会契約職員雇用規程の一部改正について</p> <p>議案第10号 平成30年度社会福祉法人ときわ会社会福祉事業区分第1次資金収支補正予算について</p> <p>議案第11号 平成31年度社会福祉法人ときわ会「本部」・「ふじの木園（支援施設）」・「ふじの木園（相談事業）」・「ときわ作業所」・「ときわホーム」・「小規模授産施設」・「あゆみ」の事業計画（案）について</p> <p>議案第12号 平成31年度社会福祉法人ときわ会社会福祉事業区分資金収支予算（案）について</p> <p>議案第13号 社会福祉法人ときわ会評議員会の招集事項について</p>	有

9. 評議員会開催状況

開催年月日	議 題	監事出席
平成30年 6月14日	<p>議案第1号 平成29年度社会福祉法人ときわ会社会福祉事業区分第3次資金収支補正予算について</p> <p>議案第2号 平成29年度社会福祉法人ときわ会「本部」・「ふじの木園」・「ときわ作業所」・「ときわホーム」・「小規模授産施設」・「あゆみ」の事業報告について</p>	有

	議案第3号	平成29年度社会福祉法人ときわ会社会福祉事業区分収支決算について	
平成31年 3月26日	議案第4号	社会福祉法人ときわ会理事の辞任に伴う理事の選任について	有
	議案第5号	平成30年度社会福祉法人ときわ会社会福祉事業区分第1次資金収支補正予算について	
	議案第6号	平成31年度社会福祉法人ときわ会「本部」・「ふじの木園（支援施設）」・「ふじの木園（相談事業）」・「ときわ作業所」・「ときわホーム」・「小規模授産施設」・「あゆみ」の事業計画（案）について	
	議案第7号	平成31年度社会福祉法人ときわ会社会福祉事業区分資金収支予算（案）について	

10. 監事の監査状況

監査年月日	監査氏名	監査における指示・指摘事項	備考
平成30年 5月18日	青山 透 石川勇男	平成29年度において、事業全般に渡り適正に運営され、経理面においても適正に処理されていることを認める	

11. 評議員選任・解任委員会の開催

開催年月日	議 題	備考
平成31年 3月26日	議案第1号 社会福祉法人ときわ会評議員の辞任に伴う評議員の選任について	

12. 法人運営会議の開催

委員長：佐々木直(理事)

委員：中西和子(評議員) 三ツ口和男(前施設長)

滝正直(ときわ作業所施設長) 春日井昌市(ふじの木園施設長)

事務局：本間浩平(事務局次長) 春日井裕美(事務局次長)

古田貴(事務主幹) 林宏和(事業主幹)

開催年月日	主 な 内 容	備考
平成30年 5月23日	<ul style="list-style-type: none"> 理事会、定時評議員会について 社会福祉充実計画について 平成30年度の職員採用について 	
平成31年 1月30日	<ul style="list-style-type: none"> 平成31年度事業計画及び予算の骨子について 職員の確保定着・処遇改善について 理事会、評議員選任・解任委員会、臨時評議員会について 	
平成31年 3月13日	<ul style="list-style-type: none"> 第2期中期計画について 理事会・評議員選任・解任委員会、臨時評議員会について 平成31年度職員体制について 時季指定による年次有給休暇の取扱要綱の制定について 	

13. 事務局会議の開催

委員長：春日井昌市(事務局長)

委員：滝正直(事務局参事) 本間浩平(事務局次長)

春日井裕美(事務局次長) 古田貴(事務主幹) 林宏和(事業主幹)

開催年月日	主な内容	備考
平成30年 4月3日	・法人監査、法人運営会議、理事会、定時評議員会について	
平成30年 5月10日	・法人監査、法人運営会議、理事会、定時評議員会について ・第三者評価受審について ・平成30年度の職員採用について	
平成30年 6月13日	・業務改善を予定する事項等について ・規程集改正事項について ・職員の資格研修等の受講について	
平成30年 7月25日	・働き方改革に伴う労働条件の検証について ・職員実習生等の昼食費について ・職員の求人及び採用状況について	
平成30年 8月20日	・西日本豪雨にかかる義援金について ・法人指導監査及びふじの木園指導監査と実地指導について ・働き方改革関連法について	
平成30年 9月21日	・法人指導監査、ふじの木園指導監査及び実地指導の結果について ・法令遵守要領の一部変更について ・契約職員の正規職員登用試験実施要綱の一部変更について ・事業計画の進捗状況と今後の取り組みについて	
平成30年 10月31日	・ふじの木園及びときわ作業所の定員減について ・特定相談支援事業の報酬等のシミュレーションについて ・交流会について	
平成30年 11月22日	・ふじの木園及びときわ作業所の定員減について ・次年度契約・パート職員の契約更新等について ・事業計画・予算骨子について	
平成30年 12月19日	・働き方改革関連法成立に伴う年次有給休暇の取得について ・法人本部第2期中期計画について ・ときわ作業所及び小規模授産施設の利用者工賃について	
平成31年 1月16日	・職員給与等支給規程の一部改正(案)等について ・時季指定による年次有給休暇の取扱要綱(案)について ・事業計画及び予算の骨子について ・各事業の定員減についての県Q&Aについて ・法人運営会議、理事会、臨時評議員会について	
平成31年 2月13日	・平成31年4月職員異動等について	
平成31年 2月22日	・時季指定による年次有給休暇について ・平成31年4月職員異動(内示)等について ・職員の求人及び採用試験について	

14. 法人連絡調整会議の開催

委員 長：委員長：林宏和（支援主幹） 副委員長：長縄健（相談主幹）
 委 員：春日井裕美（指導主幹） 大川内誠（支援主幹） 古田貴（事務主幹）
 丹羽章（支援副主任） 櫻井健司（事務員）
 総 括：本間浩平（ふじの木園副施設長）

開催年月日	主 な 内 容	備 考
平成30年 4月6日	・決算・事業報告について ・あゆみ田楽会について	
平成30年 5月8日	・事業報告及び決算について ・各部会、委員会の活動予定について	
平成30年 7月17日	・ときわバザーについて ・あゆみエンジョイ Summer について ・心身障害者（児）連絡協議会の報告について	
平成30年 8月31日	・夜勤者及び宿直者の健康診断について ・職員インフルエンザ予防接種について ・ときわバザーについて	
平成30年 11月16日	・常勤職員の健康診断について ・交流会について	
平成31年 1月8日	・事業計画及び予算骨子について ・交流会について	
平成31年 3月11日	・交流会の反省について ・平成31年度の各部会、委員会について	

15. 事務職会議の開催

委員 長：古田貴（事務主幹） 副委員長：櫻井健司（事務員）
 委 員：三浦里夏（事務員） 薮下卓也（事務員）

開催年月日	主 な 内 容	備 考
平成30年 4月2日	・決算について ・事務処理の標準化について	
平成30年 6月20日	・決算業務をふりかえって ・事務業務の標準化について	
平成31年 1月8日	・事業計画及び予算骨子について ・平成31年度の各部会、委員会について	

16. ふじの木園・ときわ作業所の第三者評価の受審

サービスの質の向上に結びつけるため第三者評価を受審した。客観的な立場から「特に評価の高い点」や、「改善を求められる点の評価」等の評価を受けることで、事業運営における問題点を把握することができた。

また、評価結果をインターネット上で公表することで、利用者の適切なサービス選択に資するための情報とすることができた。

〔第三者評価機関〕 株式会社 中部評価センター（名古屋市緑区）

〔実施施設・事業所〕 ときわ作業所 訪問調査 平成30年12月13日実施

ふじの木園 訪問調査 平成30年12月14日実施

[評価結果公表先（推進センターホームページ）]

<http://www.aichi-fukushi.or.jp/daisansha-hyoka/>
受審業者の一覧（評価結果）→平成30年度

17. 社会福祉充実計画

平成30年度に予定した職員の処遇改善は、処遇改善手当等の拡充として、処遇改善手当の支給を行い、キャリアパスの拡充は、平成29年度に設置した法人事務局の、事務局職員の業務の種類や内容等について、職務分掌として整備することができた。

18. 中期計画の平成30年度の取り組み

(1) 法人本部事務局の職務の充実

各事業所の職務を兼務する事務局の職員の、事務局として行う業務の種類や内容等、適切な職務分掌について整備することができた。

(2) 今後の事業等の方向性

法人の諸課題について、各事業の費用や国・民間の補助制度等の調査を行い、江南市及び愛知県にも確認した結果、建物に関する整備や改修等の重要な指標となる国庫補助は、国の施策である“地域移行”や“地域生活支援拠点等の整備”を江南市と連携し推進していくことが交付の優先の目安となることなどがわかった。

検討の結果、各事業の着手を以下の順位で位置付け、新規グループホームの整備から着手し、以外の項目についても、具体的な検討を継続していくこととした。

優先順位	施設・事業所	事業等	費用（概算）	目的	着手の予定時期（開設等の時期）
1	第2ときわホーム（仮称）	新規グループホーム整備	調査中（創設又は改修整備）	地域移行の推進	年度整備補助協議 令和3年度工事着工 （令和4年4月1日開設）
2	ふじの木園	定員の見直し	-	地域移行及び施設の個室化	平成30年度受入調整開始 （令和4年度）
3	ときわ作業所	大規模修繕	3千万円	耐震補強・老朽化対策等	令和4年度以降
4	ふじの木園	全居室個室化	1億4千500万円	利用者の生活環境の向上	令和4年度以降
-	ときわ作業所	定員の見直し	-	定員の適正化	調査中
-	ときわホーム	スプリンクラー設置	調査中	設置の義務化に備えた対応	利用者の障害支援区分による
-	地域生活支援拠点事業所（仮称）	※地域生活支援拠点等の整備	調査中	※地域生活支援拠点等の目的	調査中

※地域生活支援拠点等の整備とは

障害児者の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据え、居住支援のための機能（相談、緊急時の受け入れ・対応、体験の機会・場、専門的人材の確保・養成、地域の体制づくり）を、地域の実情に応じた創意工夫により市もしくは圏域で整備し、障害児者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制を構築することです。

※地域生活支援拠点等の目的とは

○ 障害者等の重度化・高齢化や「親亡き後」に備えるとともに、地域移行を進めるため、重度障害にも対応できる専門性を有し、地域生活において、障害者等やその家族の緊急事態に対応を図るもので、具体的に2つの目的を持ちます。

- ① 緊急時の迅速・確実な相談支援の実施・短期入所等の活用
⇒ 地域における生活の安心感を担保する機能を備える。
- ② 体験の機会の提供を通じて、施設や親元からグループホーム、一人暮らし等への生活の場の移行をしやすい支援を提供する体制を整備
⇒ 障害者等の地域での生活を支援する。

[主な会議等]

- ・法人事務局会議（年12回開催）
- ・法人事業検討プロジェクトチーム（年6回開催）
- ・職員全員会議（平成31年3月29日開催）

(3) 職員の処遇改善と人員配置

職員の処遇改善とキャリアパスの拡充は、法人の社会福祉充実計画に基づいた取り組みを行い、職場環境の充実を図ることができた。

職員配置は採用活動の強化を継続し、看護師1人、支援員3人、支援員補助（パート）1人、世話人1人を新たに配置したことで、法人の標榜する職員数に近づき、利用者支援の充実につなげることができた。職員の定着に向けての職員との面談やヒアリングの在り方については、課題として引き続き研究をしていくこととなった。また、今後の事業の方向性を見据えた中で、現在の各施設、事業所の運営に必要な人員配置の検証を行い、適切な職員の配置に努めた。

[主な会議等]

- ・法人事業検討プロジェクトチーム（年6回開催）
- ・職員全員会議（平成31年3月29日開催）

(4) 各施設・事業所の中期計画の検証

法人本部、施設・事業所の第1期中期計画（平成28年度～平成30年度）の達成度や実施状況等を検証した後、新たに第2期中期計画（令和元年度～令和3年度）を策定し、令和元年度の事業計画の中に位置づけた。

[主な会議等]

- ・法人中期計画策定プロジェクトチーム（年4回開催）
- ・職員全員会議（平成31年3月29日開催）

◇特に評価の高い点

◆保護者との連携・交流

毎月保護者会が開催され、多くの保護者・家族が事業所に来訪している。具体的には事業所での様子を伝えたり事務連絡を行うなど、事業所側からの情報提供を行うことはもとより、保護者からの意見や相談にも丁寧に対応している。職員は、法人の成り立ちが“障害児・者の保護者”を中心に創生されたことを理解しており、保護者との良好な関係を継続しつつ、適切で十分な連携や交流を行っている。保護者も事業所での運営に協力的で、バザー等のイベントにはボランティアとして献身的な協力がある。

◆会議の充実

職員会議はもとより、管理会議、支援員会議、ケース会議、給食会議、保護者会議、入所検討委員会等々、様々な会議を設定し、各課題や分野ごとに民主的、客観的に検討を重ねることで、安全・安心かつ適正な支援を図っている。

◆医療的な支援

年に2回の健康診断があり、嘱託医の毎月の訪問に合わせて健康相談等を受けることもできる。また、看護師が「健康カレンダー」と呼ばれる健康にまつわるテーマを毎月設定して、職員と利用者には有益な情報を提供する取り組みがある。医療的な支援が必要とされる利用者は投薬支援及びアレルギー対応が主であるが、いずれも看護師の責任の下に支援している。薬については鍵のかかる部屋で適切に管理されており、誤薬を防ぐためになるべく薬の一包化を進めたり、チェックリストを活用する等、できる限りの対策を取っている。夜間についても、看護師専用の携帯電話を常に持っていることで、医務的な指示がいつでも受けられる体制が整っている。

◇改善を求められる点

◆苦情対応

ホームページや法人機関誌等により、事業内容や収支状況など様々な情報が開示されている。また、事業所内の掲示版にも「重要事項説明書」をはじめ多くの情報掲示がなされていた。第三者評価に関しても過去複数回の受審をしている。また、苦情に関しては規定が整備され、公表についても定められているが、実際には苦情の受付は皆無であり、サービス内容や職員対応が真に適正あるのか又は苦情のシステムが機能していないかは定かではない。後者とすれば、再点検を要す。これらを含め、更なる透明性の向上と、地域発信により、事業者や障害者の理解促進を図りたい。

◆地域移行について

個別支援計画作成時やアセスメントの見直しを行う際、地域移行に関するニーズを聴取しているが、今のところ、希望する利用者はいない。しかし、能力的に地域で生活することが可能と思われる利用者は何名か在籍しており、体験する機会の提供や地域移行がイメージできるような情報の提供を積極的に行うことが望ましい。見学や体験利用によって、利用者の考え方が変わったり、結果としてその人生の転機となる可能性も秘めている。

◇特に評価の高い点

◆職員全員による施設評価

サービス提供の課題等については、フロア毎のリーダー会議が毎週行われ、ここでの検討事項がサービス検討会や支援員会議で検討され、改善への手立てとなっている。チェック部分では、毎年「施設評価」を職員全員で実施し、人権、主体性、プライバシー、エンパワメント、コミュニケーションなど様々な項目についてサービス評価し、結果集計、分析して改善に結びつけている。

◆多様な支援メニュー

作業支援の他、生活支援、健康支援、余暇支援など、利用者個々の障害特性やニーズ、要望を捉え、様々な日中活動を展開している。また、活動の際に地域資源の利用や地域業者と連携するなど、地域との接点を重視している。

◆サービスチェック体制

職員全員のサービス評価分析、またサービス検討会での課題分析など、幾重ものサービスチェック体制があり、サービス向上への重要な足掛かりとしている。

◇改善を求められる点

◆総合的な人事管理制度

キャリアパスフォームが策定されて運用されているが、職員が業務の成果を測る手立てが見られない。また、自己目標を設定し、評価して次の目標につなげるといった目標管理もシステムとして実施されていない。人材育成を目指す総合的な制度を構築されたい。

◆利用者説明の工夫

作業や創作、余暇、給食などの支援実施に伴う説明については、図や絵、写真などを使ったものも用意されているが、基本方針や理念、事業計画その他事業活動の基本部分について、支援者の主体である利用者がより理解しやすいような更なる工夫と配慮を考慮されたい。

平成30年度 ふじの木園（支援施設） 事業報告書（案）

1 ふじの木園の運営

設置主体	社会福祉法人 ときわ会
経営主体	社会福祉法人 ときわ会
事業種別	指定障害者支援施設(施設入所支援・生活介護事業)
施設名	ふじの木園
所在地	江南市河野町五十間88番地
事業内容と定員	障害者支援施設 (1) 施設入所支援 50名(現員46名) (2) 生活介護 50名(現員46名 施設入所と同者) (3) 短期入所 5名(随時) (4) 日中一時支援 5名(随時)
対象者	障害支援区分4以上(50歳以上は区分3以上)である者
職員等	[職員]・常勤26名(正規25名・契約1名)・非常勤8名 計34名 [他]・嘱託医(内科)1名 ・講師(音楽療法・軽運動・機能訓練)5名 計6名

職員

(単位:人)

	施設長	副施設長	サービス管理責任者	事務員		支援員	
				事務主幹	事務員	支援副主任	支援員
男	※ ₁ 1	※ ₂ 1	1	1	0	0	9
女	0	0	0	0	1	※ ₃ 1	8 (8)
合計	1	1	1	2		18 (8)	

	看護師	栄養士	合計
男	0	0	13
女	1	2	13 (8)
合計	1	2	26 (8)

()内は非常勤職員数、別掲

※₁は特定相談支援事業所施設長を兼務

※₂は特定相談支援事業所副施設長を兼務

※₃は特定相談支援事業所相談副主任を兼務

2 事業総括

障害者支援施設

(1) 施設入所支援・(2) 生活介護

施設入所支援は、夜間及び休日において、入浴や排せつ、食事等の支援を行ってきた。

生活介護は、平日の日中において、施設入所支援同様の生活支援に加え、3つの活動班からなる生産活動、音楽療法等の療育活動及びクラブ活動等の創作的活動に取り組んだ。

施設の課題である利用者の高齢化、重度化の進行に対応するため、支援面では、一人ひとりへの安全な支援を目的に、入浴時間の増をはじめ、移動、トイレ、食事等にかかる介助の度合いを増やし、設備面では、供用で使用できる立位補助具や介護ベッド(2台)を整備し活用したことにより、事故等を最小限に留め、安全な支援につなげることができた。

生産活動の頻度は減らしたが、自主製品のクッション、エコバッグの製作数の確保に努めた。また、余暇時間を中心に古知野高校・くるみの里と共同で受験生のためのお守り作りを行い、地域社会との交流につなげることができた。

利用者数は、女性は10月に地域生活への移行による1名の退所があった。また、男性1名の長期入院や2月に複数のインフルエンザA型の発症もあり、年間を通しての利用延べ人数、1日当たり平均利用人数は減少した。

利用料収入は、昨年度より5,637,499円、率では2.8%の減収であった。

(3) 短期入所・(4) 日中一時支援

短期入所は、家庭の事情による急な受け入れもあったが、江南市基幹相談支援センターや他の相談支援事業者との連携により、円滑なサービスを提供することができた。

日中一時支援は、他の通所系事業所での活動後からの一時的な受け入れ等により、必要な支援を行うことができた。

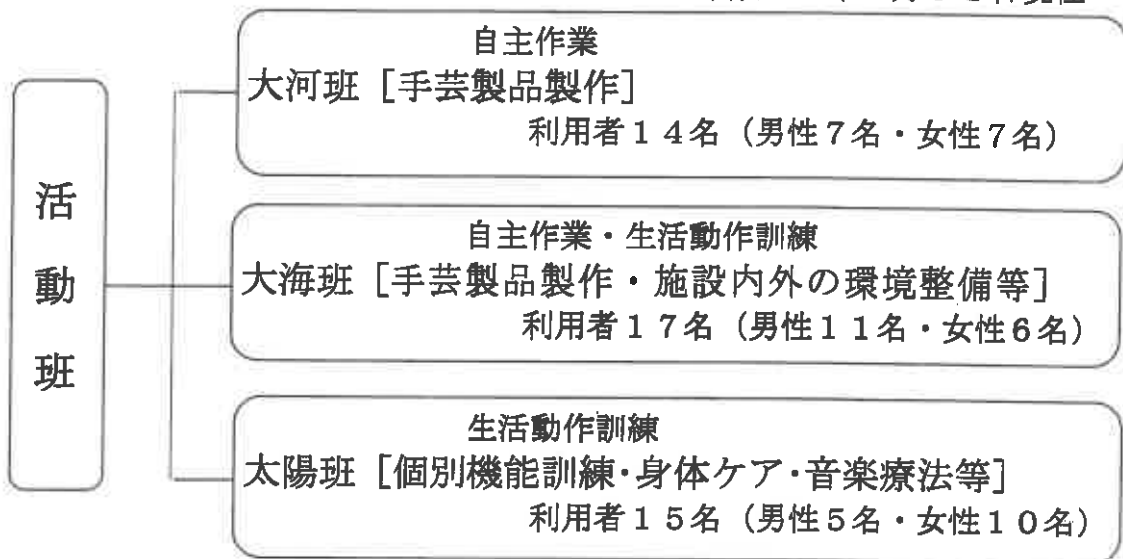
また、短期入所の利用率は増加し、日中一時支援の利用率は減少した。合わせた額で昨年度より1,107,771円、率では17.5%の増収であった。

事業内容

1 生産活動

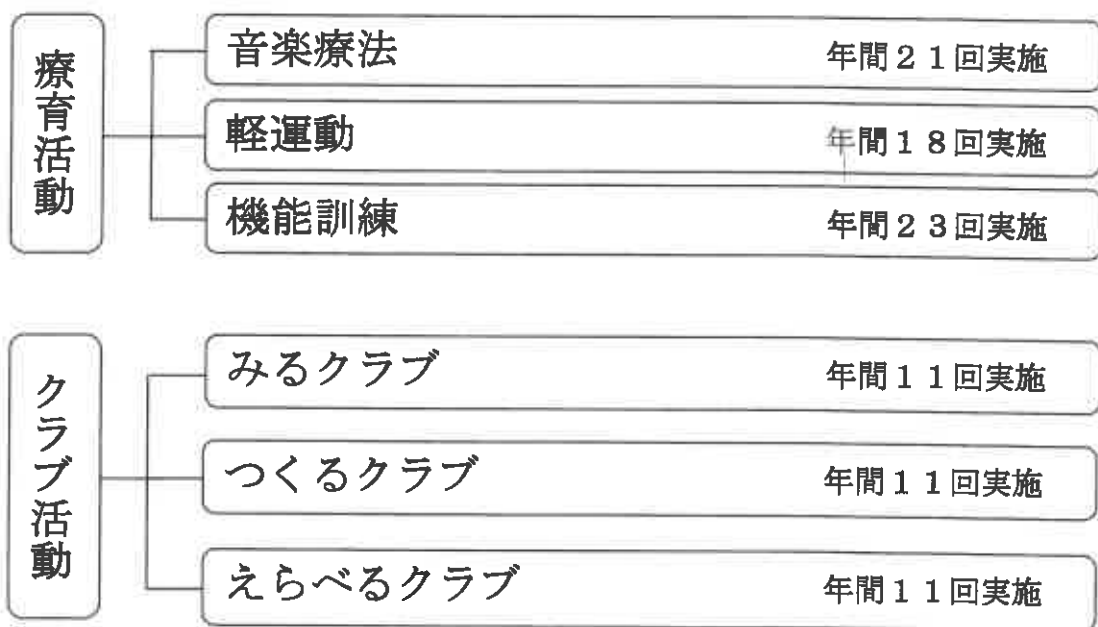
利用者の作業能力に応じた様々な生産活動を通して、身体機能や生活能力の向上を図った。

平成31年3月31日現在



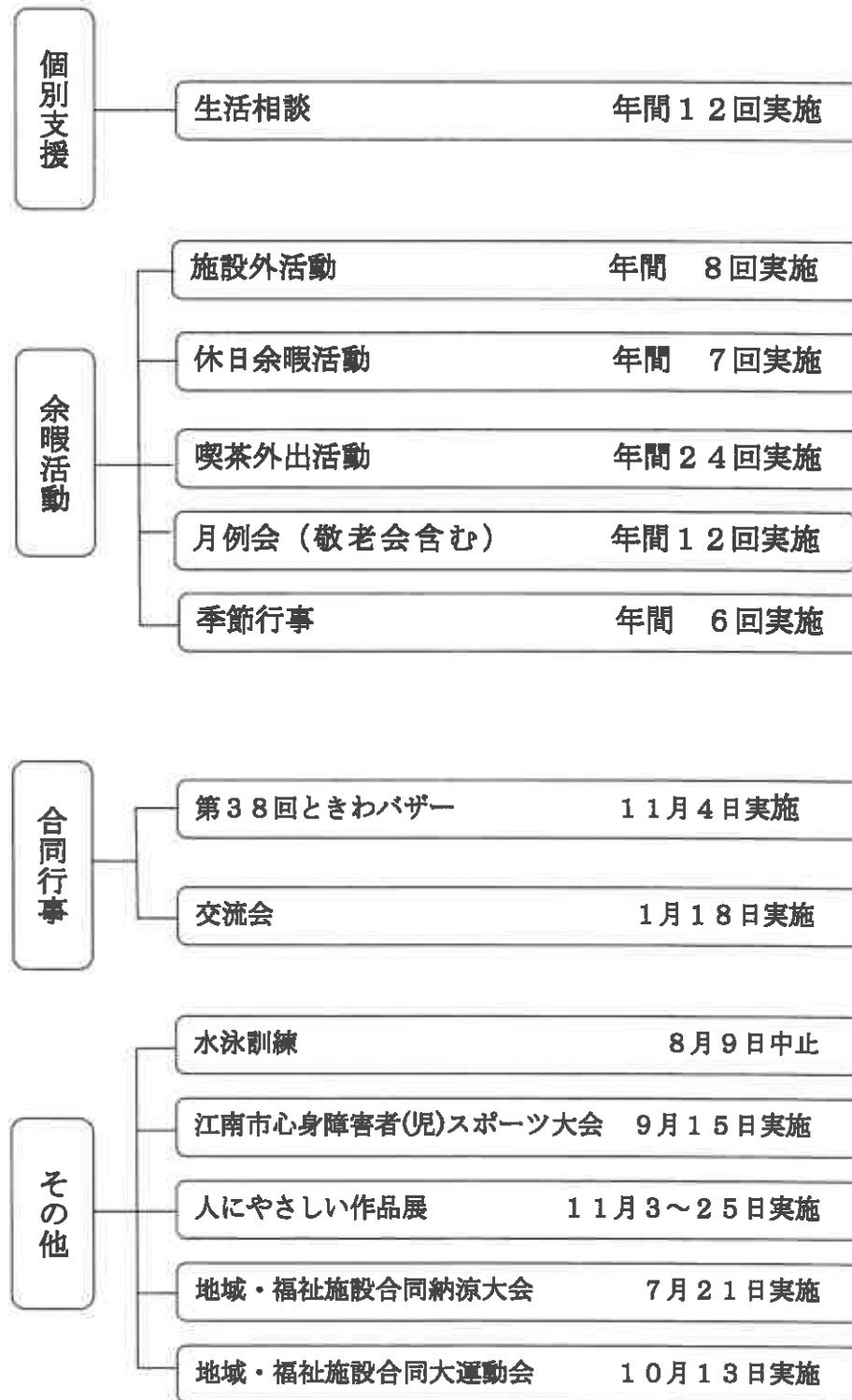
2 創作的活動

音楽やスポーツ、書道やDVD鑑賞等の創作的活動を通して、興味や趣味を持ち、施設生活の向上を図った。



3 その他の活動

利用者の環境、年齢及び心身の状況に応じた個別支援や余暇活動等を行い、施設生活の充実と地域への積極的な参加を図った。



4 医療支援

【入院】

精神科 3 件

その他の診療科 1 件 (腸閉塞)

【通院】

医療支援の強化と充実について

耳鼻科と婦人科については施設から近距離の病気の候補を挙げ、バリアフリー、障害者トイレの設置、予約診療などを調べた。病院の職員へも障害の特性について相談してから利用を開始した。精密検査 (MRI など) を受けることにより適切な診療を受けることができ、通院や治療期間の短縮につなげることができた。

リハビリについては、通院リハビリを 3 年半続け「少しの介助で移動、歩行できる」という開始時の目標を達成することができ、終了した。その後施設内のリハビリや機能訓練の継続することにより、経過の把握や日中活動の中での実施時間が増加し、「見守りでの一人歩き」ができるようになり、機能の維持・向上につなげることができた。

【回診・その他の取り組み】

- ・内科回診 1 2 回 藤原誠治医師 (藤原医院院長)
- ・歯科健診 6 月 2 8 日 尾北歯科医師会
- ・利用者・非常勤職員健康診断 7 月 2 5 日 名古屋公衆医学研究所
- ・支援員 (夜勤者) 健康診断 1 0 月 9 日 藤原医師
- ・利用者・職員インフルエンザ予防接種 [2 回に分けて実施]
1 1 月 2 0、2 7 日 藤原医師
- ・手洗い講習 1 0 月 3 0 日 魚国総本社
- ・利用者健康診断 3 月 1 2 日 藤原医師
- ・常勤職員健康診断 2 月 江南厚生病院
- ・職員救急講習会 1 月 3 1 日 江南消防署
- ・体重測定 年 4 回実施
- ・血圧測定 年 4 回実施

2 月中旬には、利用者と職員の複数がインフルエンザ A 型に発症したため、対応マニュアルに沿った支援と自宅待機等をお願いすると共に、発症のない方にもタミフルを予防として服用してもらい、更なる拡大の防止に努めた。

5 給食支援

非常食は賞味期限の短い食品を長く備蓄できる食品に変更し、災害直後のライフライン停止時にも対応できる食品を 1 回目の食事にする等、災害時の献立の見直しを行った。

給食連絡会議等で話し合いを行うことで、給食委託業者と施設が互いに業務の見直しを行い、異物混入のない安心安全な食事提供に努めた。

厨房内の食器洗浄機の入れ替えをしたことで、機器の不具合なく洗浄作業を円滑に行うことができた。

[主な取り組み]

- | | |
|---------------|----------------------------|
| ・行事食 | その都度（7月うなぎ丼、2月恵方巻き等） |
| ・セレクトメニュー | 毎月1回（豚肉の味噌漬け焼き 又は 天ぷらの選択等） |
| ・誕生者リクエストメニュー | 誕生日（誕生者が希望した一品） |
| ・料理長のいちおしメニュー | 月1回（深川丼・スペイン風オムレツ等） |

6 地域移行への支援

施設の入所者であっても、施設生活から地域生活への移行を目標に長期的な取り組みとして、「外出して～をしたい」、「～へ外出に行きたい」等の日頃の利用者からの希望を勧誘して、ショッピングモール等の地域資源を活用し、地域社会との関わりに努めた。

7 ときわホームへのバックアップ

主に夜間や休日における医療や災害等でときわホームの利用者に緊急の対応が必要となった際の協力施設としての役割に備えた。

平成30年度 緊急対応 0件

8 防犯対策

相模原で起きた障害者施設での殺傷事件以降、防犯対策を強化するため以下の取り組みを行った。

[主な内容]

- ・防犯訓練の実施 社会福祉施設侵入事件防犯対策DVDの鑑賞 11月30日
一人ひとりが防犯への意識(施錠の徹底と確認、来訪者への職員からの声掛け、施設周辺の安全確認等)を持つことの重要性を確認することができた。
- ・来園者受付簿の実施
- ・防犯カメラ・記録システム、ガラスセンサーの設置後の点検

9 第三者評価の実施

本部事業報告参照。

10 中期計画の平成30年度の取り組み

(1) 支援面

ア 個々の個性を尊重した支援の調査研究

衣服や理美容については利用者閲覧用にファッション誌を複数用意したが、施設外活動で利用者自らが好みの衣服を購入したり、施設の理髪日が近づくと、「こんな風にしてもらいたい。」と雑誌の切り抜きを用意する様子が見られた。また、『これからもよろしくね会で着たい服』というテーマで服の披露会を行い、他の利用者からの感想を聞くことで、着飾る楽しみを感じることに繋がった。

食事面は、選択制メニューの定期的な提供について検討した結果、ふりかけ等の嗜好品の幅を広げることが「選べる楽しみ」につながるということがわかった。

(2) 生活環境

ア リフト浴の実施の増加

利用者の高齢者施設への移行もあり、リフト浴利用の増加はなかったが、支援員によるリフトの利用方法の確認と、業者による機器点検と修繕を行った。また、立位補助具を整備し、着脱衣に活用したことで安全な入浴を実施することができた。

(3) その他

ア 職員研修

職員には内部研修だけでなく、多種多様な分野（ミュージックケア、口腔ケア等）の外部の研修への参加機会を増やすことができた。また、外部研修の報告機会を作り、全職員への周知を行った。特に接遇研修については研修内容を内部研修に取り入れ、全職員を対象に実地指導を取り入れる形で研修を行い、利用者・保護者への対応や職員間のコミュニケーション方法について習得し、資質向上につなげることができた。

[主な内部研修]

・虐待防止研修

第1回「接遇研修を受けて」（7月27日に全職員受講）

第2回「介護技術演習」（8月31日に全職員受講）

[主な外部研修]

- ・社会福祉施設職員セミナー「社会福祉施設職員の接遇」（7月3日にサービス管理責任者及び5年目支援員の2名受講）
- ・初任職員研修「ミュージックケア利用者の気持ちを大切にしたい関わり方とは」（7月9日に1年目支援員1名受講）
- ・施設職員口腔ケア研修会（11月8日に看護主任及び6年目支援員の2名受講）

生産活動報告

1 大河班

[手芸製品製作] 自主作業

日課の見直しにより、班活動の実施回数が前年度に比べ、減ったことで製品の製作に遅れがあったが、少人数で特別班を実施することで製品製作数の確保につなげた。通常の活動ではクッション、エコバッグを分担することで、作業を効率よく行うことができた。

新製品としてトートバックの製作を計画したが、活動回数の減少により、従来より取り組んでいる製品を優先して取り組んだことで、製作まで至らなかった。
また、作業の合間に適宜散歩を行い、気分転換を図ることもできた。

2 大海班

[手芸製品製作] 自主作業

クッション製作は、大河班との分業により、綿ちぎり、綿切りに精力的に取り組み、効率の良い製作につなげることができた。

大河班よりくるみボタンゴム、ランチョンマットとコースターセットの製作を引き継ぎ、製作に取り組んだが販売数が伸びなかったため、製作数を調整した。

新製品として巾着袋を計画していたが、製作時に使用するミシンの使い方について、対象の利用者が使い方の習得をするために支援員が付き添って練習時間を設ける体制を整えることができず、製作にまでつなげられなかった。

[生活動作訓練] 個別機能訓練・施設周辺の清掃活動等

利用者の高齢化、重度化に対応するため、機能訓練や生活動作訓練の活動にも取り組んだ。

施設の中庭の清掃活動に取り組み、環境美化に努めた。また、施設周辺の地域清掃活動に年5回取り組むことができた。

3 太陽班

[生活動作訓練] 個別機能訓練、身体ケア、音楽療法

ペグボードや型はめ等の生活動作訓練や、絵本の読み聞かせや音の出る絵本、CDによる音楽療法やDVD鑑賞を行った。男女利用者別での活動により少人数での散歩、機能訓練の個別プログラム、個別支援計画に基づいた活動を重点に取り組むことで、各自の身体機能の維持、向上につなげることができた。

創作的活動報告

1 療育活動

①音楽療法

4月の家族との会食会での発表と1月の合同行事である交流会での発表に向けて、普段の活動時以外の余暇時間や休憩時間にも練習に取り組んだ。また、課題曲の練習以外にも普段の活動では、季節や行事に応じた合唱、曲に合わせてストレッチや体を動かすことも行った。また、全員が参加できるように個々に合わせた楽器を配る等をして、楽しく参加してもらうことができた。

年間21回実施

[行事での発表曲]

4月 これからもよろしくね会

「虹」合唱、手話

「やってみよう」合唱、打楽器（マラカス、オートシェイプ）演奏

1月 交流会

「ビリーヴ」合唱

「踊るポンポコリン」合唱、ハンドベル演奏、打楽器（トゥバーノ）演奏

②軽運動

日課の見直しを行ったことにより、今年度から活動日時が火曜日の午前に変更となったが、大きな混乱はなく取り組むことができた。講師の指導のもと、レクリエーションは飽きることはないように数種類を入れ替わりに行い、楽しく参加できるようなルール作りにも工夫した。

[主な活動]

- ・レク（ボッチャ、パターゴルフ、ボウリング、ピンポン入れ）
- ・ボッチャふじの木カップ（7チームによるトーナメント）

○大会

フライングディスクとボッチャの大会に希望者が選手として参加し、練習の成果を発揮し楽しむことができた。

[大会結果]

- ・愛知県障害者スポーツ大会（フライングディスク（アキュラシー5））
利用者4名（金メダル1、銀メダル1、銅メダル1）
- ・第19回愛知県ボッチャ大会
利用者6名 Aチーム リーグ3位（銅メダル）
Bチーム リーグ2位（銀メダル）

○地域交流等

江南市社会福祉協議会、江南市役所との連携により中学生や民生委員とボッチャを通じて交流することができた。

[主な活動]

- ・知的障がい者理解促進スポーツ教室（北部中学） 利用者6名
- ・江南市民生委員児童委員協議会全体研修会・ボッチャ研修（すいとびあ江南）
利用者3名

年間18回実施

③機能訓練

作業・理学療法士の講師のもとでグループ運動と利用者個々の状況に合わせた個別ADL指導を受けた。

グループ運動では発語訓練、棒体操、セラバンドを使用した運動プログラムを行った。参加者の多くが活動内容に慣れ、訓練を楽しみながらも、集中して取り組むことができた。

参加者一人ひとりに対する個別ADL指導では、歩行や肩・膝痛の個別の課題に対して、日頃から行うことのできる運動やストレッチ等を教わることができ、日常生活の中でも実践した結果、関節可動域が改善し、筋力の向上や歩行の安定等につながった。

高齢化、重度化の対応のため、参加利用者の見直しを行い、入れ替えを行った。

また、機能訓練の参加者に限らず、必要に応じて利用者の身体機能の相談も行い、助言を受け、日常の支援に役立てることができた。

3月31日現在で計15名が参加している。

年間23回実施

[主なグループ運動]

- ・摂食・嚥下機能訓練（首や口の動き・発声練習）
- ・準備運動（上下肢・肩関節・股関節の運動等）
- ・筋力トレーニング（棒を使った運動、セラバンドを使用した運動等）

[主な個別ADL指導]

- ・体重減少目的とした体幹の回旋、段差昇降
- ・体幹安定性向上を目的とした足踏み及び歩行運動
- ・関節可動域の維持向上を目的とした運動

2 クラブ活動

①みるクラブ

プロジェクターを使用したDVD鑑賞を行った。内容は利用者のリクエストを聞きながら、見やすさ・楽しさを考慮した物を選んで放映した。

鑑賞後はその作品にちなんだ塗り絵を行い、観賞して感じたことを思い思いの色で表現しながら塗り絵を楽しむことができた。クラブ活動後の発表では、みるクラブ以外の利用者に映画の感想も発表し、映画の楽しさを伝えることができた。

完成した塗り絵は1F廊下に掲示することで、他の利用者や保護者等の来園者にも見ってもらうことができた。

年間11回実施。

[鑑賞したDVD作品]

ミニオンズ、名探偵コナン、ピノキオ、モアナと伝説の海、ドラえもん等

②つくるクラブ

全体作品は季節に合わせた壁飾りを作製し、個人作品は自分の好きな絵を描いて各月のカレンダーを作ったり、習字を行った。

完成した作品を活動後に発表し、その後1F廊下へ掲示した。多くの人に見てもらうことで、満足感や、やりがいを持つことにつながることができた。

年間11回実施。

③えらべるクラブ

利用者が選択した活動内容を月替わりで取り組む形式のクラブ活動“えらべるクラブ”を行った。活動内容は以下の通り。

実施月	活動内容	実施月	活動内容
4	フライングディスク練習、公園散策	10	公園散策
5	フライングディスク練習、公園散策	11	折り紙
6	公園散策	12	手作りオルゴール
7	手作りオルゴール	1	手作りオルゴール
8	紙粘土	2	紙粘土
9	公園散策	3	公園散策

・公園散策（4、5、6、9、10、3月）

ご自身で活動内容を選択することが困難と思われる利用者を対象に、過ごしやすい時期に戸外を散策し、気分転換を図った。また、木々や草花の様子から季節を感じることができた。

・フライングディスクの練習（5月）

5月に行われる県障害者スポーツ大会の練習も兼ねて出場利用者を中心に行った。

・手作りオルゴール（7、12、1月）、紙粘土（8、2月）、折り紙（11月）

作品に関しては、居室に飾ったり、帰省時に家庭へ持ち帰る利用者もあり、保護者へクラブでの様子を伝えることもできた。

年間11回実施。

その他の活動報告

1 個別支援

生活相談

毎月開催することができ、相談者の困っていることや聞いて欲しいことを言葉や表情で理解することができ、職員の共通認識として支援に生かすことができた。また、相談者自身もゆっくりと話ができる時間の中で安心感と満足感を得ることができ、その後の安定した生活につなげることができた。

本人からの希望が6件、課題解決のための話し合い等1件、気分転換や機能訓練等のリフレッシュが5件であった。

年間12回実施（利用12名）

- [主な相談内容]
- ・施設での生活について
 - ・帰省について
 - ・他利用者との関係について

2 余暇活動

①施設外活動

利用者との話し合いの中から行先や行程を計画した。職員からのイベントや施設の情報等の提供により、様々なイベントの体験を楽しむことができた。また、11月から2月は感染症対策のため行わず、感染予防に心掛けた。

年間8回実施

[主な行き先]

各務原航空宇宙博物館、多治見市モザイクタイルミュージアム、扶桑イオン、テラスウォーカー宮等

②休日余暇活動

参加利用者の希望に沿って喫茶を行うことで、充実した休日を過ごすことができた。また、近隣の高齢者施設のイベントにも出かけ、他施設の方々との交流を深めた。

また、11月から3月までの感染症予防期間は施設内で楽しめる余暇活動(クリスマスツリー飾りつけ、カラオケ等)を行った。

年間7回実施

[主な行き先]

サンライフ地域感謝祭見学、コメダ珈琲江南村久野店

[施設内での取り組み]

クリスマスツリーの飾りつけ、園内の飾り物の作製、カラオケ

③喫茶外出活動

主に火曜日の午後に少人数のグループで利用者の希望する喫茶店や、ショッピングモールへ行き、憩いのひと時を楽しむことができた。また、喫茶外出後にすいとびあ江南へ立ち寄り、人にやさしい作品展を鑑賞し、楽しむ機会とすることもできた。

11月～3月の感染症対策期間は複合施設等の人混みを避けた場所での活動で感染予防に心掛けた。

年間24回実施

[主な行き先]

コメダ珈琲江南村久野店、アピタ江南西店、花がすみ等

④月例会・敬老会

月例会では、施設長から当月の行事予定と誕生者の発表、看護主任から健康に過ごすための病気の予防に関する話題、栄養主任から旬の食材の紹介や栄養素に関する話を聞くことで、日常生活において季節を意識することができた。

誕生者のお祝いには月例会での発表とクラブ活動の発表時にプレゼントをもらい、ケーキを食べて祝福した。

敬老会では今年度60歳を迎えた方の長寿のお祝いをし、記念品としてパジャマを贈呈した。

年間12回実施（内9月は敬老会）

⑤季節行事

・これからもよろしくね会(平成30年4月13日)

園内で開催したことによって、食事の個別の対応や、集団が苦手な利用者へ別室を用意する等の対応がしやすくなり、出席人数の増加につながった。

レクリエーションでは、音楽療法の時間や余暇時間に練習を重ねてきた「やってみよう」や「虹」を発表した。会場の雰囲気も盛り上がり、一体感を共有できた。

食事席を会議室等の長テーブルを使用することで席の間にゆとりを持つことができた。

・七夕祭り(平成30年7月6日)

始めに七夕の紙芝居を利用者数名で朗読した後、クイズを出し、七夕について深く知る機会となった。その後、七夕の曲が流れる中で短冊に願い事を書き、一人ひとりの願いを発表した。短冊と折り紙の飾り物を模造紙へ貼り、七夕の雰囲気を楽しんだ。

・クリスマス会(平成30年12月25日)

クリスマスツリーの飾り付けを事前に利用者が行い、雰囲気や季節感を出し、クリスマス会までの間、楽しみに過ごすことができた。

当日は希望のプレゼントをもらうことができ、手にした際には利用者同士で見せ合うなどして楽しみを分け合った。一人ひとりプレゼントを持って写真を撮影し、1F廊下に掲示したことで、多くの人に見てもらえることができた。

・書初め大会(平成31年1月8日)

手本や、自分の書きたい言葉を選び、楽しく取り組み、同月のクラブ活動後に全体で発表会を行い、書いた字を選んだ理由や書く時に苦労した点について、充実した表情で全体に伝えることができた。半紙と寄せ書き形式で書けるように模造紙を用意した。模造紙には文字以外にも手形や絵を描くことで全員参加することができた。その後は地域交流スペースに掲示したことで、家族や来園者にも見てもらえることができた。

・節分祭(平成31年2月1日)

代表利用者が節分のいわれを説明し、職員が節分にちなんだ紙芝居の朗読を行い、節分へ関心を持ってもらった。新聞紙を丸めた豆で職員が扮した鬼へめがけて豆まきを行った。「鬼のパンツ」の曲を使用することによって、より楽しい雰囲気で行い、季節を感じることができた。

・ひな祭り(平成31年3月1日)

代表利用者がひなまつりのいわれを説明し、皆でひなまつりの歌を歌った後に、折り紙を使いひな人形を作り、楽しみながら季節を感じることができた。作製したひな人形は1F廊下に掲示したことで、多くの人に見てもらうことができた。

3 合同行事

①第38回ときわバザー(平成30年11月4日)

当日は雨模様となったが、地域の方にもたくさん参加していただき交流を深める場となった。みたらしコーナーを外部委託することで職員配置を変更し、利用者対応に配置したことで、利用者がより参加しやすい体制を整えることができた。

合同行事や各施設・事業所を紹介する掲示物を掲示したことで、ときわ会を地域の方に知ってもらえる良い機会となった。

開催場所 ときわ作業所、ふじの木園、ニコット、畑

②交流会(平成31年1月18日)

新成人を迎えたときわ作業所の利用者を皆で祝福する成人の集いが行われた。祝賀会では「おどるポンポコリン」の合奏や食事を通して、法人内の利用者同士の交流を深めることができた。また、江南消防音楽隊の演奏時には、江南市のマスコットキャラクター「藤花ちゃん」が登場し、ステージの前で他施設・事業所の利用者と一緒に踊り、楽しい時間を過ごすことができた。

開催場所 すいとびあ江南

4 その他

①水泳訓練(平成30年8月9日)

熱中症予防のため中止。

②心身障害者(児)スポーツ大会(平成30年9月15日)

参加者全員が楽しく競技できるよう、事前に利用者に参加する競技を決めてもらった。着せ替えレースや借り物競争等楽しく参加し、保護者も一緒に応援して皆で一体となって取り組むことができた。

前年度に続き、アトラクションで演舞団体“笑舞”による鳴子踊りが行われた。見るだけでなく、その場で踊り方を教えてもらい、演者と一緒に踊って楽しく参加することができた。

開催場所 KTXアリーナ

③人にやさしい作品展(平成30年11月3日～25日)

全体作品は、模造紙にちぎった色画用紙と綿で虹を製作した。色画用紙をちぎる、模造紙に貼る等、各工程を分担して行うことで、全員で取り組むことができた。

個人作品は、休日や余暇時間を活用して10名ほどの利用者が取り組んだ。また、施設外活動で作製したモザイクタイルを使用した写真立てや、クラブ活動で作製したオルゴールも出展することができ、展示スペースが華やかになった。

開催場所 すいとびあ江南

④地域・福祉施設合同納涼大会(平成30年7月21日)

事前に盆踊りの練習を行うことで、当日までを楽しみに過ごした。当日は櫓を囲み、地域の方たちや高齢者施設の方たちと一緒にになって馴染みの曲に合わせて踊ることで、楽しい一時を過ごすことができた。また、アトラクションの転輪太鼓の迫力のある和太鼓演奏も披露され、会場が盛り上がった。

長時間の参加が難しい利用者は、参加する時間を短くして対応した。会場との往復移動が慌ただしくなることもあったが、雰囲気を楽しむことができた。

開催場所 旧ジョイフルむつみグラウンド

⑤地域・福祉施設合同大運動会(平成30年10月13日)

玉転がしやパン食い競争等の競技に加え、新しく借り物競争が加わった。家族と共に皆で楽しみ、怪我なく参加することができた。会場テントに背もたれ付きの椅子を準備したことや、昼食を施設へ戻り飲食することで、落ち着いた環境を提供することができた。保護者・利用者ともに快適に参加することや応援することができた。

開催場所 旧ジョイフルむつみグラウンド

平成30年度 ふじの木園行事等報告

月 日	行 事 等	月 日	他団体協力バザー
4. 13	これからもよろしくね会		
5. 19	県障害者スポーツ大会 (豊田市運動公園)	4. 21 ～5. 6	藤まつり (偶数日参加)
6. 28	歯科健診	5. 27	こどもフェスティバル
7. 6	七夕まつり		
7. 21	地域・福祉施設合同納涼大会		
7. 24	あゆみエンジョイ Summer		
7. 25	健康診断 (移動検診車)		
9. 15	心身障害者 (児) スポーツ大会 (KTXアリーナ)		
10. 13	地域・福祉施設合同大運動会	9. 27 10. 14	古知野高校文化祭 江南ふれあいまつり
11. 4	第38回ときわバザー		
11. 3 ～25	人にやさしい作品展		
11. 20	インフルエンザ予防接種①		
11. 27	インフルエンザ予防接種②		
12. 9	愛知県ボッチャ競技大会 (中村スポーツセンター)		
12. 25	クリスマス会		
1. 4	新年会		
1. 8	書初め大会		
1. 18	交流会 (すいとぴあ江南)		
2. 1	節分まつり		
3. 12	健康診断	2. 19 ～ 24	猫づくし展
3. 1	ひなまつり		
3. 5	ボッチャふじの木杯		

その他		施設実習等	
月例会(敬老会含む)	年間 1 2 回実施	(介護実習)	
クラブ活動	年間 1 1 回実施	愛知県立古知野高校 7名	7月23日～ 7月 26日
保護者会	年間 1 2 回実施		7月30日～ 8月 2日
避難訓練	年間 1 2 回実施	(社会福祉士実習)	
体重測定	年間 4 回実施	中部学院大学 1名	8月 6日～ 9月 7日
血圧測定	年間 4 回実施	(知的障がい者理解促進軽スポーツ教室)	
施設外活動	年間 8 回実施	江南市立北部中学校	6月27日
休日余暇活動	年間 7 回実施	(江南市民生委員児童委員協議会全体研修会・ボッチャ研修)	
喫茶外出活動	年間 2 4 回実施	すいとびあ江南	11月20日
音楽療法	年間 2 1 回実施	(職員研修)	
軽運動	年間 1 8 回実施	江南市新規採用職員研修	5月25日
機能訓練	年間 2 3 回実施	(施設見学)	
生活相談	年間 1 2 回実施	稲沢市民生委員施設見学	8月30日
		山尻あおぞら子ども会見学	9月3日

障害者支援施設（生活介護・施設入所支援）の状況

1 契約状況（市町村別）

平成31年3月31日現在

市町村名	性別		合計	入所前の状況			
	男	女		入所施設	通所施設	在宅	入院
江南市	14人	20人	34人	0人	25人	7人	2人
一宮市	3	0	3	0	1	2	0
岩倉市	1	0	1	1	0	0	0
小牧市	0	1	1	0	0	1	0
犬山市	1	0	1	0	0	1	0
名古屋市	0	1	1	1	0	0	0
北名古屋市	0	1	1	0	0	1	0
清須市	1	0	1	0	1	0	0
大口町	1	0	1	0	1	0	0
扶桑町	2	0	2	0	2	0	0
合計	23	23	46	2	30	12	2

2 障害支援区分別

平成31年3月31日現在

区分	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男	0人	1人	1人	7人	1人	13人	23人
女	0	1	1	7	4	10	23
合計	0	2	2	14	5	23	46

3 年齢別

平成31年3月31日現在

性別	18歳未満	18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	合計	平均年齢
男	0人	0人	0人	3人	11人	5人	4人	23人	49.4歳
女	0	0	1	6	9	3	4	23	47.9
合計	0	0	1	9	20	8	8	46	48.7

4 月別利用状況

(1) 生活介護（月～金曜日及び施設長が定めた日の9:00～17:00）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用延べ人数	960人	1,005人	956人	1,008人	978人	960人
稼働日数	22日	23日	22日	23日	23日	22日
1日当たり 平均利用人数	43.6人	43.7人	43.5人	43.8人	42.5人	43.6人
契約人数	47人	47人	47人	47人	47人	47人
利用率	92.8%	93.0%	92.5%	93.2%	90.5%	92.8%

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
利用延べ人数	1,012人	924人	1,002人	958人	795人	1,001人	11,559人	963人
稼働日数	23日	22日	23日	23日	20日	23日	269日	22.4日
1日当たり 平均利用人数	44.0人	42.0人	43.6人	41.7人	39.8人	43.5人		43.0人
契約人数	47人	46人	46人	46人	46人	46人	559人	46.6人
利用率	93.6%	91.3%	94.7%	90.5%	86.4%	94.6%		92.2%

利用率 定員50人に対し、1日平均利用人数43.0人 利用率92.2% 年間延べ11,559人が利用
年間稼働日数 269日

(2) 施設入所支援（夜間及び休日等）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用延べ人数	1,174人	1,248人	1,206人	1,250人	1,202人	1,192人
稼働日数	30日	31日	30日	31日	31日	30日
1日当たり 平均利用人数	39.1人	40.3人	40.2人	40.3人	38.8人	39.7人
契約人数	47人	47人	47人	47人	47人	47人
利用率	83.3%	85.7%	85.5%	85.8%	82.5%	84.5%

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
利用延べ人数	1,259人	1,181人	1,213人	1,148人	1,017人	1,240人	14,330人	1,194人
稼働日数	31日	30日	31日	31日	28日	31日	365日	30.4日
1日当たり 平均利用人数	40.6人	39.4人	39.1人	37.0人	36.3人	40.0人		39.3人
契約人数	47人	46人	46人	46人	46人	46人	559人	46.6人
利用率	86.4%	85.6%	85.1%	80.5%	79.0%	87.0%		84.3%

利用率 定員50人に対し、1日平均利用人数39.3人 利用率84.3% 年間延べ14,330人が利用
年間稼働日数 365日

5 利用料収入の前年度比較

(1) 施設本体

	生活介護	施設入所支援	特定障害者特別給付費	特定費用等	合計
30年度	116,637,874円	54,008,771円	5,195,438円	19,419,782円	195,261,865円
29年度	119,225,357円	55,930,297円	5,452,504円	20,291,206円	200,899,364円
差引	-2,587,483円	-1,921,526円	-257,066円	-871,424円	-5,637,499円
前年比	97.8%	96.6%	95.3%	95.7%	97.2%

(2) 短期入所・日中一時支援

	短期入所	日中一時支援	合計
30年度	6,077,484円	1,365,727円	7,443,211円
29年度	4,624,701円	1,710,739円	6,335,440円
差引	1,452,783円	-345,012円	1,107,771円
前年比	131.4%	79.8%	117.5%

施設本体は昨年度より5,637,499円、率では2.8%の減収であった。

短期入所の利用率は増加し、日中一時支援の利用率は減少した。合わせた額で昨年度より1,107,771円、率では17.5%の増収であった。

6 日常生活動作能力別

平成31年3月31日現在

区分	性別		合計	
	男	女	男	女
	23人	23人	46人	46人
食事	全介助	2	4	6
	一部介助	10	10	20
	自立(見守り・声かけ)	11	9	20
排泄	全介助	4	6	10
	一部介助	8	9	17
	自立(見守り・声かけ)	11	8	19
着脱	全介助	3	7	10
	一部介助	5	4	9
	自立(見守り・声かけ)	15	12	27
洗面	全介助	9	11	20
	一部介助	8	7	15
	自立(見守り・声かけ)	6	5	11
入浴	全介助	8	11	19
	一部介助	8	12	20
	自立(見守り・声かけ)	7	0	7
歯磨き	全介助	8	12	20
	一部介助	6	11	17
	自立(見守り・声かけ)	9	0	9
生理	全介助	0	8	8
	一部介助	0	4	4
	自立(見守り・声かけ)	0	0	0
	終了	0	11	11

7 入院状況

平成30年4月1日～平成31年3月31日

性別	精神神経科	その他の科	合計	備考
男	2人	1人	3人	[その他の診療科の主な入院内容] 精神面不安定、腸閉塞 検査 薬の調整
女	1	0	1	
合計	3	1	4	

8 通院状況別

平成30年4月1日～平成31年3月31日

	内科	外科	整形外科	精神神経科	皮膚科	歯科	眼科	耳鼻科	脳外科	泌尿器	婦人科	合計
男	159人	29人	33人	35人	11人	52人	0人	10人	0人	0人		329人
女	257	2	71	44	52	195	28	3	0	0	18人	670
合計	416	31	104	79	63	247	28	13	0	0	18	999

(把握分)

9 服薬状況

平成31年3月31日現在

性別	要服薬者	非服薬者	合計
男	19人	4人	23人
女	19	4	23
合計	38	8	46

定期薬服薬者(座薬や頓服薬者除く)

10 服薬状況内訳

平成31年3月31日現在

性別	中枢神経系 用薬使用者	その他内服 薬使用者	合計
男	14人	5人	19人
女	12	7	19
合計	26	12	38

定期薬の種類別分類

11 栄養摂取状況別

平成30年度平均

	エネルギー	たんぱく質	脂質	カルシウム	鉄	ビタミンA	ビタミンB1	ビタミンB2	ビタミンC
	(Kcal)	(g)	(g)	(mg)	(mg)	(ug)	(mg)	(mg)	(mg)
平均	1,780	71.7	40.9	541	9.8	684	0.95	1.00	99
ふじの木 園基準量	1,800	66.0	40	660	11	700	1.20	1.10	100

※ 低カロリー食含

知的障害者(児)短期入所事業の状況(契約者数90名の内、28名の利用 延べ利用日数754日)

1 契約状況(市町村別)

平成31年3月31日現在

市町村名	成人(18歳以上)		合計
	男	女	
江南市	43人	19人	62人
一宮市	5	2	7
犬山市	0	1	1
小牧市	2	0	2
岩倉市	0	2	2
名古屋市	0	1	1
大口町	8	2	10
扶桑町	0	5	5
合計	58	32	90

2 障害支援区分

平成31年3月31日現在

区分	成人(18歳以上)		合計
	男	女	
区分1	5人	0人	5人
区分2	1	4	5
区分3	9	8	17
区分4	20	12	32
区分5	12	8	20
区分6	11	0	11
合計	58	32	90

3 年齢別

平成31年3月31日現在

性別	成人						合計	平均年齢
	18~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60歳以上		
男	0人	8人	27人	10人	5人	2人	58人	39.4歳
女	0	8	12	10	1	1	32	38.2
合計	0	16	39	20	6	3	90	38.8

日中一時支援事業の状況(契約者数85名の内、18名の利用・延べ利用日数240日)

1 契約状況(市町村別)

平成31年3月31日現在

市町村名	成人(18歳以上)		合計
	男	女	
江南市	42人	20人	62人
一宮市	6	2	8
岩倉市	0	1	1
犬山市	0	1	1
小牧市	1	0	0
扶桑町	0	4	4
大口町	7	1	8
合計	56	29	85

2 障害支援区分

平成31年3月31日現在

区分	成人(18歳以上)		合計
	男	女	
区分非該当	0人	1人	1人
区分1	5人	0人	5人
区分2	1	3	4
区分3	8	6	14
区分4	18	12	30
区分5	12	7	19
区分6	12	0	12
合計	56	29	85

3 年齢別

平成31年3月31日現在

性別	成人						合計	平均年齢
	18~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60歳以上		
男	0人	9人	27人	12人	5人	3人	56人	38.6歳
女	1	8	12	7	1	0	29	36.6
合計	1	17	39	19	6	3	85	37.6

平成30年度 ふじの木園（相談事業） 事業報告書（案）

1 ふじの木園の運営

設置・経営主体 社会福祉法人 ときわ会
 事業種別 指定特定相談支援事業所 [指定特定相談支援事業]
 事業所名 ふじの木園
 所在地 江南市河野町五十間88番地
 事業内容と定員 特定相談支援事業
 (1) 計画相談支援 随時
 (2) 基本相談支援 随時
 対象者 計画相談支援 障害福祉サービスを利用する者
 基本相談支援 障害者及びその家族等
 職員数 [職員]・正規4名 計4名

(単位：人)

	施設長	副施設長	相談支援専門員	
			相談主幹	相談副主任
男	※ ₁ 1	※ ₂ 1	1	
女				※ ₃ 1
合計	1	1	2	

※₁は障害者支援施設ふじの木園施設長を兼務

※₂は障害者支援施設ふじの木園副施設長を兼務

※₃は障害者支援施設ふじの木園支援副主任を兼務

2 事業総括

(1) 計画相談支援

障害福祉サービス支給決定後のモニタリングでの聴き取りや、担当者会議を通して、サービスの進捗状況の確認や課題を検討し、利用者や家族のニーズが反映されたサービス等利用計画の作成につなげることができた。家庭環境の変化や身体状況等の変化に合わせたサービス等利用計画の作成に努めた結果、在宅生活からグループホームへの移行や短期入所事業の利用、通所施設の変更等、適切な障害福祉サービスの利用に結び付けることができた。また、年度途中で亡くなられた利用者については、関係機関と連携し、支援体制を構築したことで、本人と家族の意向に沿った在宅生活を支えることができた。

今年度は、入所施設等への移行に併せ相談支援事業所の変更等もあり、契約者は108名と、昨年と比較し2名減少したが、モニタリング報告書の作成件数増や、加算の取得により、報酬は293,950円、率では10.7%の増収であった。

(2) 基本相談支援

障害福祉サービスの利用に関すること、年金や行政等の手続きに関すること、補装具の申請に関すること等、個々のケースに合わせて障害者やその家族からの相談に応じ、必要な情報提供に努めた。

3 中期計画の平成30年度の取り組み

(1) 利用者サービスの向上

ア サービス等利用計画の質の向上、相談支援専門員のスキルアップ

利用者を支える家族の高齢化等に伴い、今後成年後見制度の活用も増えることが想定されるため、相談支援専門員1名が「平成30年度成年後見実務研修」を受講し、成年後見制度についての理解を深めることができた。また、2ヶ月に一度の頻度で開催された江南市相談支援連絡会に相談支援専門員2名が参加し、市内の相談支援事業所の相談支援専門員との意見交換や情報共有をすることができた。

「障害福祉サービス提供実施報告書」を効果的に活用したことで、必要な情報の把握と情報共有をすることができた。また、事例を通して、入院中の利用者の退院時における医療機関とのカンファレンスの参加等、幅広い分野との連携強化をすることができた。

イ 事業と運営の安定

制度改正によるモニタリング実施標準期間の見直しに対応するため、市内の他相談支援事業所に対して、人員体制や日常業務内でのサービス等利用計画の作成手順等について聴き取り調査を行った。その結果マニュアル等を見直し、効率化することができた。

交通費等の実費徴収について調査研究を行うこととしていたが、平成30年度制度変更(報酬改定)によって、加算の新設や報酬単価の見直し等がされたため加算取得についての調査研究を行った。その結果、現在の人員配置で取得のできる「特定事業所加算(IV)」の取得等、増収につなげることができた。

事業内容

1 計画相談支援

計画相談支援

サービス利用支援

契約者数 108名 (男性60名・女性48名)
サービス等利用計画作成件数 113件
サービス担当者会議開催回数 108件

継続サービス利用支援

契約者数 108名 (男性60名・女性48名)
モニタリング報告書作成件数 86件

2 基本相談支援

基本相談支援

【主な相談内容】

健康・医療に関する相談	107件
福祉サービスに関する相談	82件
不安の解消・情緒安定に関する相談	21件
家計・経済、生活技術に関する相談	15件
行政手続きや諸制度に関する相談	4件
その他の相談	16件

計画相談支援

1 サービス利用支援

新規の契約者はなく、障害福祉サービスの支給量更新時に合わせてサービス等利用計画案の作成を主に行った。支給更新時は、遅滞のないサービス等利用計画の作成に努め、利用者とその家族への聴き取りを行い、情報の収集やニーズを把握し、適切なサービス利用につなげることができた。また、サービス等利用計画の作成後はサービス担当者会議を開催し関係者間での情報共有や支援方法等について協議をすることができた。

2 継続サービス利用支援

定められた期間ごとにモニタリングを実施し、サービスの進捗状況や生活状況、ニーズの変化等を把握し適切なサービス利用へとつなげることができた。また、モニタリングの期間外でも生活環境の変化やニーズの変化等が見られた際にはその都度モニタリングを実施し、サービス事業所との調整や変更等により利用者と家族の安心安全な生活につなげることができた。

基本相談支援

障害者やその家族からの福祉や日常生活等の相談に対して、必要に応じて障害福祉サービス事業所や行政・医療機関等の専門機関の情報提供等を行った。

【主な相談内容】

障害福祉サービス利用等における事業所の情報提供、車椅子等の補助申請や日常生活用具費の申請、介護保険への切り替え等に関する相談等

会議研修等出席状況

(会議関連)			(研修関連)		
管理会議	年間	12回	施設内研修	年間	2回
職員会議	年間	12回	外部研修	年間	1回
サービス担当者会議	年間	108件			
(部会関連)					
江南市相談支援部会	年間	5回			
学習部会	年間	5回			
江南市相談支援連絡会	年間	5回			

特定相談支援事業の状況

1 契約状況（市町村別・障害別）

平成31年3月31日現在

市町村名	性別		合計	障害			
	男	女		知的	身体	精神	難病
江南市	51人	43人	94人	94人	9人	2人	0人
一宮市	3	2	5	5	2	0	0
岩倉市	1	0	1	1	1	0	0
小牧市	0	1	1	1	0	0	0
犬山市	1	0	1	1	0	0	0
名古屋市	0	1	1	1	0	0	0
清須市	1	0	1	1	0	0	0
北名古屋市	0	1	1	1	0	0	0
大口町	1	0	1	1	0	0	0
扶桑町	2	0	2	2	0	0	0
合計	60	48	108	108	12	2	0

2 障害支援区分別

平成31年3月31日現在

区分	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男	0人	2人	5人	23人	10人	20人	60人
女	0	1	9	13	15	10	48
合計	0	3	14	36	25	30	108

3 年齢別

平成31年3月31日現在

性別	18歳未満	18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	合計	平均年齢
男	0人	1人	2人	24人	21人	7人	3人	2人	60人	42.5歳
女	0	0	7	13	16	7	1	4	48	43.5
合計	0	1	9	37	37	14	4	6	108	42.9

4 月別支援状況

(1) 開所日

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数	20日	21日	21日	21日	20日	18日

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
開所日数	22日	21日	19日	19日	19日	20日	241日	20.1日

(2) サービス等利用計画書の作成

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
サービス等利用計画作成件数	9件	8件	8件	5件	8件	12件

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
サービス等利用計画作成件数	10件	8件	9件	12件	14件	10件	113件	9.4件

(3) モニタリング報告書の作成

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
モニタリング報告書作成件数	2件	5件	6件	7件	5件	8件

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
モニタリング報告書作成件数	8件	8件	8件	10件	10件	9件	86件	7.2件

5 利用料収入の前年度比較

	金額
30年度	3,036,513 (円)
29年度	2,742,563 (円)
差引	293,950 (円)
前年比	110.7 (%)

契約者の減少に伴い、サービス等利用計画とモニタリング報告書の作成件数も減少し昨年度より293,950円、率では10.7%の増収であった。

6 障害福祉サービス利用状況

障害福祉サービス		性別		合計
		男	女	
通所・在宅系サービス	生活介護	29人	21人	50人
	短期入所	35	19	54
	短期入所(療養型)	1	0	1
	居宅介護	0	2	2
	地域活動支援センター	7	4	11
	移動支援	4	3	7
	日中一時	34	19	53
居住系サービス	共同生活援助	0	6	6
	生活介護	23	23	46
	施設入所支援	23	23	46
合計		156	120	276

※重複利用があるため、契約者数とは一致しません。

2 事業総括

(1) 生活介護

日中における生産活動の機会の提供及び食事や排せつ等の日常生活上の介護の他、創作的活動の機会を提供することにより、生活能力の向上に向け必要な支援を行った。

生産活動のカード巻き作業とガーゼハンカチの作業については、業者の都合により作業終了となったが、試行的に取り組んできたボール洗浄作業が多くの利用者が携わることのできる作業として定着した。個々の利用者の適性に合わせた工程で取り組み、やりがいや責任感を養うことができた。

創作的活動では、軽運動に班単位での活動も取り入れて回数を増やしたことで、活動の幅を広げることができた。余暇活動の社会見学では、竹島水族館で珍しい深海魚をみたり、ふれあいコーナーで実際に生き物に触れたり、楽しい体験を通して、教養やマナーを身に付けることができた。

健康支援は、利用者の体調把握に注視しつつ、看護師による健康チェック等を行うなど、快適に過ごせるよう努めた。

給食支援は、委託業者と連携し利用者が選択できる献立や料理長の一押しメニューを取り入れ、楽しみの持てる食事の提供ができた。衛生面についても、食中毒防止や調理業務の衛生管理に努めることで清潔感のある厨房、食堂を保つことができた。

ときわホームのバックアップは、職員間で連携を図ることで、利用者の体調面及び精神面の把握をすることができた。

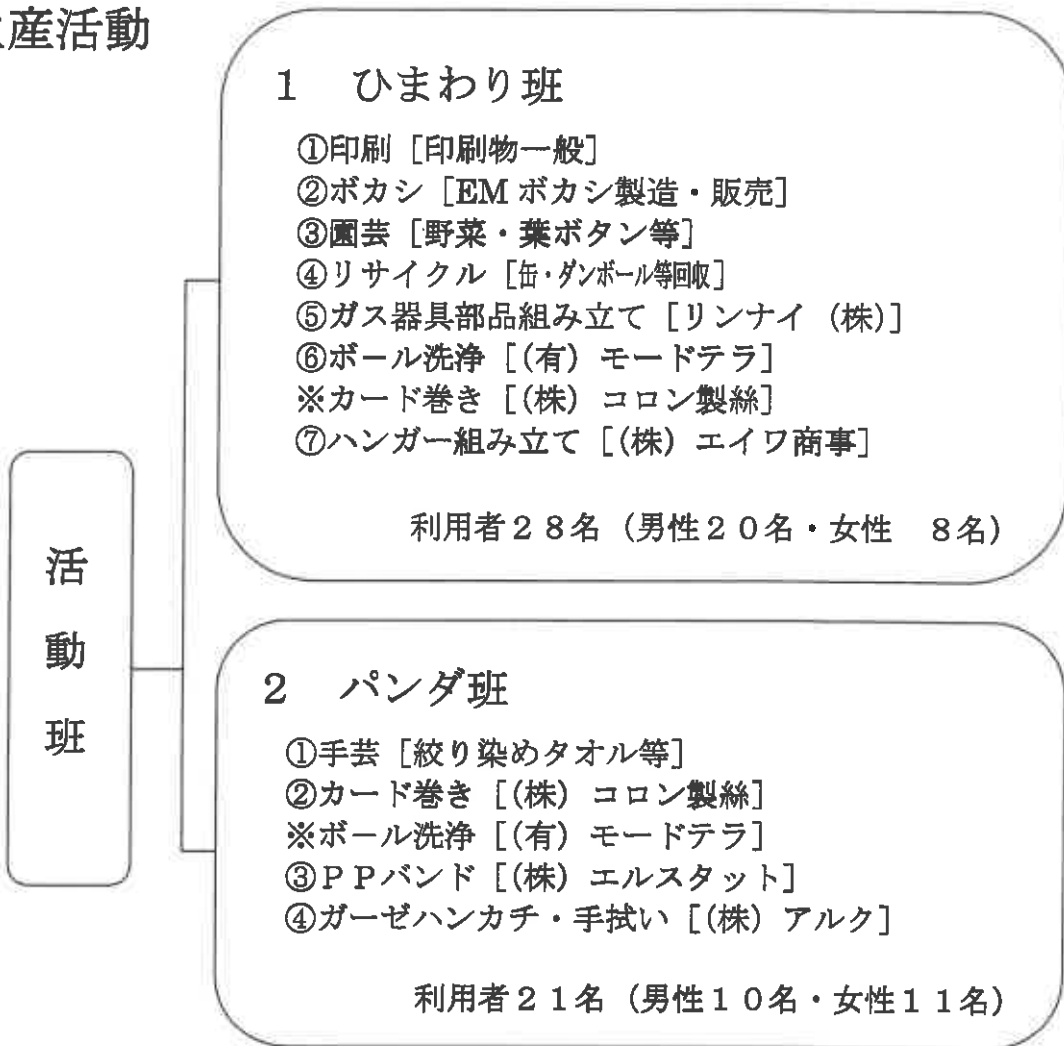
事業所の稼働日数は253日、平均利用人数は43.8人で利用率は88.0%であった。9月に台風による事業所休所日としたこと、12月に利用者1名が亡くなられたことにより、事業所の利用料収入は、額で昨年度より、3,380,203円、率では3.6%の減収であった。

(2) 日中一時支援

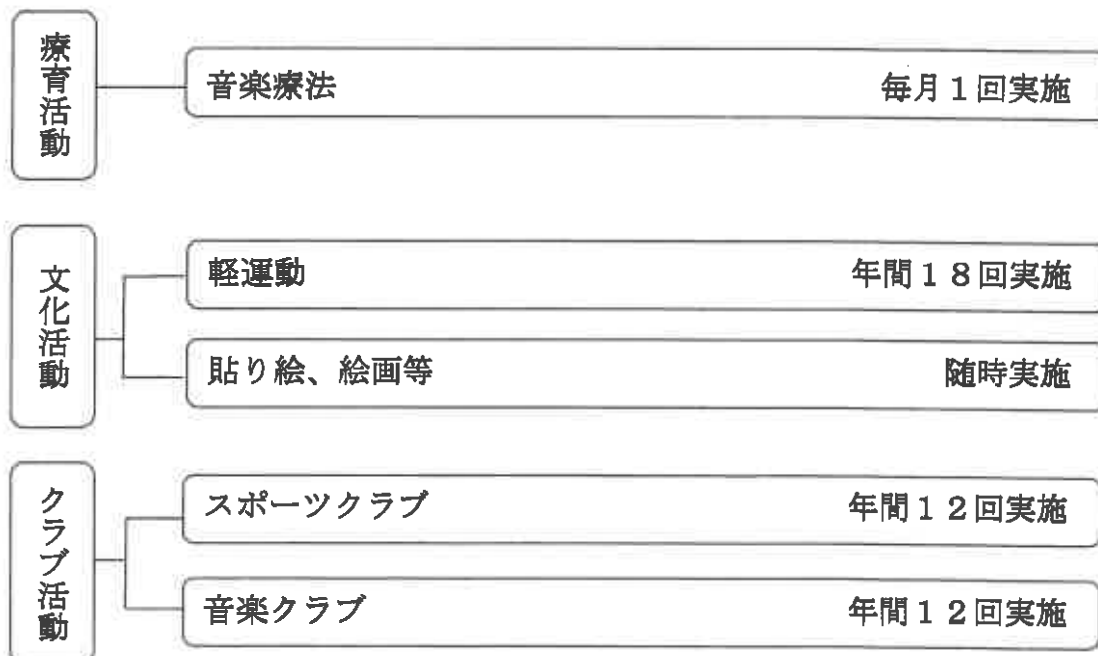
一宮東特別支援学校の生徒を夏休み期間の7月から8月、春休み期間の3月に受け入れをした。日中一時支援の利用希望者の増加に伴い、受け入れ日数が増加し、利用料収入は、額で昨年度より65,256円の増収であった。

事業内容

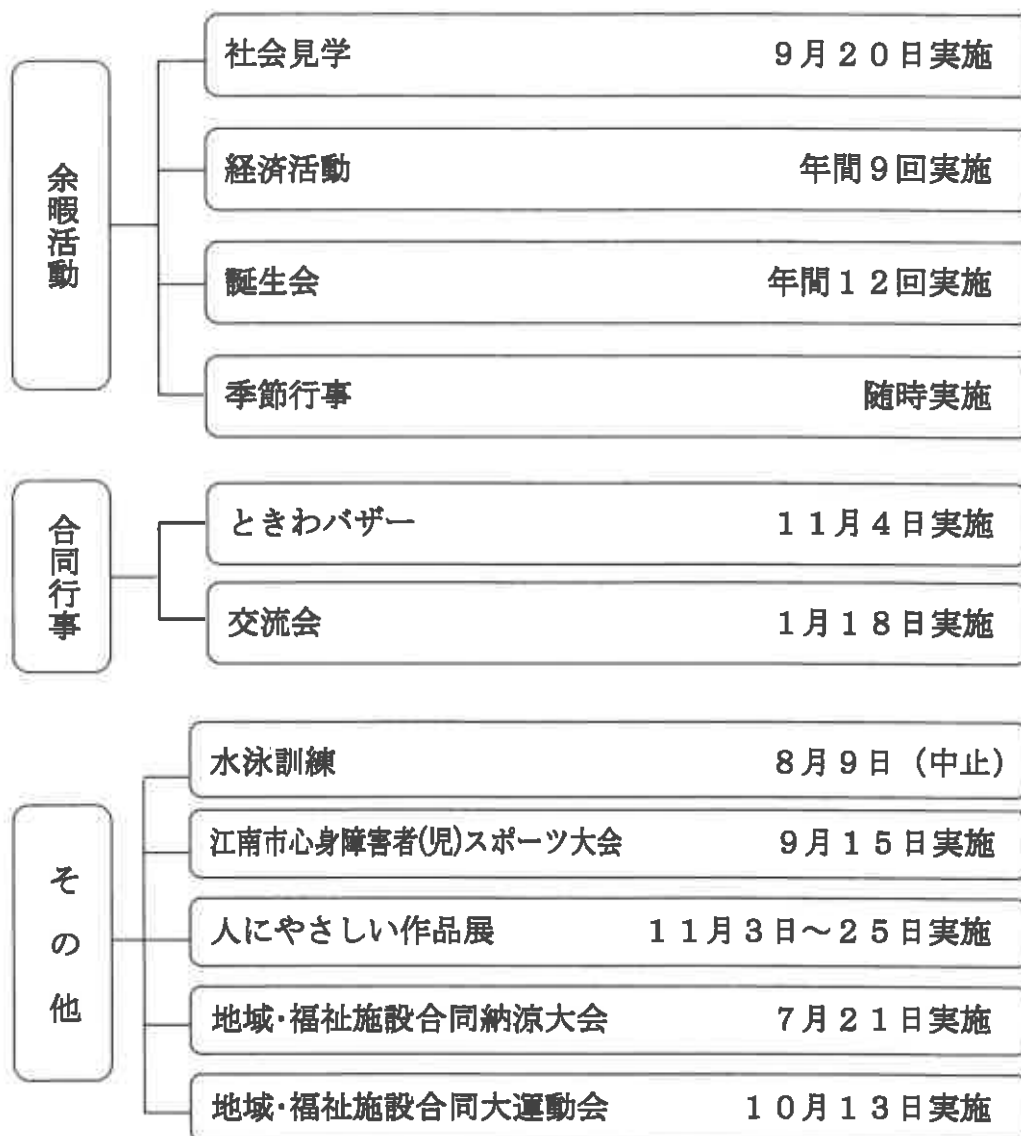
1 生産活動



2 創作的活動 (ときわ・小規模共通)



3 その他の活動 (ときわ・小規模共通)



4 健康支援

健康調査表、健康診断の結果、日常の健康観察を行うことで、適切に健康面の把握をすることができた。また、歯科衛生士による「健康教育」、「歯磨き指導」を継続して行ったことにより、歯磨き習慣が付いてきており、歯と歯肉、口腔内の健康の保持増進につなげることができた。

5 給食支援

委託業者と連携を図り、身体状況に応じた刻み食の提供や残食量の把握、選択できる献立を取り入れることで、利用者の嗜好に合わせた給食提供ができた。

衛生面では、厨房床の塗装工事を行い、食中毒防止や調理業務の衛生管理に努めることで清潔感のある厨房、食堂を保つことができた。

6 ときわホームのバックアップ

ときわホームの利用者の状況については、朝礼や終礼を通して情報の共有を図り、利用者の体調面及び精神面の把握に努めたことで、日中の利用者支援の向上にもつなげることができた。

7 第三者評価の実施

本部事業報告参照。

8 中期計画の平成30年度の取り組み

(1) 利用者サービスの向上

ア 班活動、日課の見直し

生産活動では、ボール洗浄作業と糸巻作業を試行的にひまわり班、パンダ班ともに取り組み、利用者個々にあった作業提供ができるように検討を進めた。糸巻きとガーゼハンカチは、業者の都合により年度途中で作業が終了したが、ボール洗浄作業を多くの利用者が携わることのできる作業として定着させたことで、利用者がやりがいを持って取り組むことができた。

創作的活動では、軽運動に班単位での活動も取り入れ、回数を増やしたことで、活動の幅を広げることができた。

日課については、「朝礼」「反省会」の在り方を検討し、各作業班で「朝の会」「帰りの会」を試行的に取り入れたことで、利用者への事前周知の徹底につなげることができた。

イ 工賃の見直し

生産活動の収支バランスの改善が図れたため、減額支給をすることなく、29年度と同様の工賃の支給ができた。また、ときわ作業所、小規模授産施設が同一水準での工賃支給を継続していくためにも、客観性のある分かりやすい工賃基準の確立に向けて検討をすすめる必要があると確認できた。

ウ 送迎サービスの見直し

保護者の利用者送迎困難時や電車等の公共交通機関及び有償送迎で通所している利用者に対して、送迎サービスを実施した。利用者が毎日楽しく通所できるよう、障害の重度化や高齢化にも対応した優先順位の確立や拡充に努める必要があると確認できた。

保護者の入院や怪我等の理由で送迎が困難になった際の対応として「保護者送迎困難時の留意事項」を基にした、緊急対応としての送迎サービスを2月に1名実施し、保護者の不安の軽減につなげることができた。

(2) 設備等ハード面の充実

ア 事業所の整備

南出入口の手すりの設置、フロア照明のLED化、作業椅子等の入れ替え等を進めたことで、利用者の障害の重度化、高齢化に対応した事業所の環境改善につなげることができた。

生産活動報告

1 ひまわり班

①印刷 [印刷物一般]

名刺印刷は、江南市の指定台紙を中心にお客様のニーズにできる限り対応したことで、納品の際には利用者に対して感謝の言葉を掛けていただくことができた。印刷した名刺に市章プレスを押す作業や納品業務に利用者が携わり、製品に仕上がっていく過程を理解し、仕事に対する責任感を養うとともに完成した喜びを感じることができた。

②ボカシ [EMボカシ製造・販売]

多くの利用者が製品になるまでの工程に携われるよう、工程毎に分担し取り組むことで責任感を養うことができた。販売店への納品業務は毎週2回行い、売上数や商品の状態を把握することで、品質を一定に保つことができた。納品先の職員や地域の方々にも顔を覚えていただき、励ましの言葉を掛けられることで、利用者の意欲向上につなげることができた。

③園芸 [野菜・葉ボタン等]

野菜販売や新たに取入れた葉牡丹の鉢植えの販売が大変好評であった。畑の水やりから利用者も携わることで、野菜の育ち具合も確認することができ、収穫の楽しみにつなげることができた。また、いも掘りについても、皆で協力して育ててきたという充実感溢れる笑顔が多くみられ協調性、責任感を養うことができた。

④リサイクル [アルミ缶・ダンボール回収等]

ダンボール等の回収業務は、事業所内で整理整頓し、こまめに納品をすることで急な回収依頼にも対応することができた。他の作業の流れも考慮しながら、多くの利用者が回収業務に参加できるように、1週間ごとにスケジュールを立て取り組んだ。また、アルミ缶分別の作業やダンボールの積み下ろし作業については、利用者が協力し合い作業を進めることができた。

⑤ガス器具部品組立 [リンナイ株]

年度途中で施工キャップの種類が増えたが、納入カードを色分けする等、分かりやすいよう工夫をすることで、利用者も戸惑うことなく作業に携わることができた。資材の組み付けや納品以外にも、納品箱の清掃や納入カードの準備、トラックの積み下ろし作業等、幅広い工程に携わることで自信にもつながった。また、かんばん(資材)管理表を基に業者との資材の確認を綿密にしたことにより、納期に遅れずに対応することができた。

⑥ボール洗浄 [(有)モードテラ] ※試行的にパンダ班で実施

障害の程度に関わらず、多くの利用者が携わることができるよう障害特性に合わせて作業工程を工夫したことで、試行的に取り入れたパンダ班でも作業として定着した。また、作業工程を丁寧に説明し、必要な備品を整えることで、少しずつ自信を持って取り組めるようになった。利用者が自信を持つことで、不良品の選別についても自ら判断することができた。納品業務に携わる利用者も増え、社会とのつながりを持つことができた。

⑦ハンガー組み立て [(株)エイワ商事]

工程毎に分かりやすく利用者に説明しながら役割分担をしたことで、一人ひとりが作業の大切さを自覚して資材の不良を見分けられるようになり、質の高い製品作りができた。利用者の特性に合わせた組み付け、パネ付け、型はめ、シール貼り、バリ取り等、数多く工程を設けることで多くの利用者が携われる作業となった。

2 パンダ班

①手芸 [絞り染めタオル等]

絞り染めについては、少量ずつ回数を増やして製品づくりをしたことで、多くの利用者が携わることのできる作業となり、仕上がりの模様を楽しみにし、やりがいを持って取り組むことができた。ロビー販売や各種バザー販売の際には、ねぎらいの声を掛けてもらうこともあり、製品作りの喜びにつなげることができた。

フェルト製品では、季節に合わせた商品に力を入れたことで、その時期のリースや小物製品などが販売先でも好評で、地域との交流にもつなげることができた。

②カード巻き [(株)コロシ製糸]

カードの巻き方を定期的に確認することで、カードを機械にまっすぐ差し込むことを意識し、作業への意識も高めることができたが、業者側の生産計画の変更もあり、年度途中で作業終了となった。

③PPバンド [(株)エルスタット]

利用者の特性に合わせた作業工程となるよう業者とも確認し、各工程を説明しながら作業を進めていくことで、それぞれの役割を把握し正確に取り組めるようになった。多くの利用者が携われる作業となり、協力して取り組む中で協調性や責任感を養うことができた。

④ガーゼハンカチ・手拭い [(株)アルク]

多くの利用者が携われる作業として新たに取り入れたが、業者側の生産計画の変更もあり30年度は生産活動としての活動はなく作業終了となった。

創作的活動報告（ときわ・小規模共通）

1 療育活動

音楽療法

音楽療法は、毎月外部講師を招いて行い、利用者が歌う楽しさや楽器の音色、音を体で表現することなど音楽には色々な楽しみ方があることを感じ取ることができた。また、卓上ベルを使用して他の利用者の前で発表をすることで自信を持ち、音楽療法を楽しみにする利用者が増え、情緒の安定にもつながった。

年間12回実施

2 文化活動

①軽運動

障害の重度化、高齢化や運動不足に対応することを目的に、外部講師を招き活動をした。ストレッチでは、班単位での活動も取り入れたことで、体を動かす意識を高めるとともに、体力の維持・向上にもつなげることができた。軽運動を通して利用者の生活にメリハリが付き、笑顔も増え余暇の過ごし方や興味の幅を広げることができた。

年間18回実施

- ・ストレッチ（6回）
- ・ボッチャ（11回）
- ・フライングディスク（1回）

②貼り絵、絵画等

季節に合わせた作品や作品展に向けて合同作品を活動班ごとに協力して作ることに
より、仲間と一緒に作り上げる喜びや達成感につなげることができた。

随時実施

3 クラブ活動

①スポーツクラブ

フライングディスクやボッチャに加え、利用者が安全に楽しめるシッティングバレーや、想像力を養えるジェスチャーゲーム、リズムに合わせたダンスなどの活動を、充実させたことで、体力の維持・向上や生産活動への活力に繋がった。また、季節に応じた工作・運動や天候に応じてDVD鑑賞も取り入れ、総合的な活動をすることができた。

年間12回実施

②音楽クラブ

利用者の希望を取り入れ、1年間の計画を立て実施した。クリスマス会の発表に向けて自分達で楽器を作成、練習をした。発表時は緊張した姿も見られたが、練習の成果を発揮し、綺麗な音色を響かせることができた。

外部講師を招いてオカリナの演奏を聴く機会や季節に合わせたカルタ等を取り入れることで活動の幅も広げることができた。

年間12回実施

その他の活動報告（ときわ・小規模共通）

1 余暇活動

①社会見学

竹島水族館の見学では、珍しい深海魚の展示や実際に魚と触れ合えるコーナーがあり、見たり触ったりと楽しく体験しながら見学することができた。天候不順のため、予定していた梨狩りについては中止となり梨のお土産となったが、1日を通して楽しみながら教養を高め、集団行動の中でのマナーも身に付ける機会となった。

実施日 平成30年9月20日

竹島水族館、蒲郡オレンジパーク、道の駅筆柿の里幸田での梨狩り（お土産に変更）

②経済活動

日頃の生産活動を離れ、博物館の鑑賞や岐阜の金華山でロープウェーに乗車をしたり、陶芸の体験をしたりすることで、仲間とともに地域の方との交流を図ることができた。利用者が中心となり、行き先や昼食内容を予算内で計画したことで、金銭の価値を学ぶ体験となり、充実感も得ることができた。

年間9回実施

③誕生会

利用者中心で誕生会を実施し、仲間から祝福される喜びを感じるとともに、仲間を祝福する気持ちも育むことができた。

年間12回実施

④季節行事

スポーツ大会など各種行事を通して季節の移り変わりを肌で感じ取り、地域の中で社会生活を送っていることの喜びを感じることができた。

事業所内の主な季節行事

なかよし会（11月）

事業所内の運動会として江南市の新しい体育館であるKTXアリーナにて実施した。玉入れやビーチボールサッカー、リレーに加え、今年度取り入れたボール運びに参加し楽しく交流を図ることができた。また、競技や応援を通して集団生活での協調性やマナーを身に付けることができた。

クリスマス会（12月）

音楽クラブの卓上ベルを使った演奏、ゲームやプレゼント交換に加え、利用者と職員と一緒に楽しくダンスを踊ることができた。会の最後には、サンタからお菓子も手渡され、笑顔いっぱいのひと時となった。

2 合同行事

①第38回ときわバザー(平成30年11月4日)

利用者の参加しやすいバザーとなるよう職員配置や模擬店内容を見直したことで、多くの利用者が施設製品や葉ボタンの販売に携わり、職員や保護者と一緒にイベントに参加することができた。会場を季節感が出るように飾り付けたり、合同行事や各施設・事業所を紹介するポップをときわ会場に掲示したりすることで、雨天の中での開催とはなったが、地域の方にもたくさん参加していただき交流が深められ、ときわ会を知ってもらえる良い機会となった。

開催場所 ときわ作業所、ふじの木園、ニコット、畑

②交流会(平成31年1月18日)

新成人を迎えた利用者を皆で祝福する成人の集いが行われた。食事会では「あまちゃんのテーマ」の発表や食事を通して、法人内の利用者同士の交流を深めることができた。また、江南消防音楽隊の演奏時には、江南市のマスコットキャラクター「藤花ちゃん」も登場し、ステージ脇で一緒に踊り、楽しい時間を過ごすことができた。

開催場所 すいとぴあ江南

3 その他

①水泳訓練(平成30年8月9日)

熱中症予防のため中止。

②江南市心身障害者（児）スポーツ大会(平成30年9月15日)

スポーツ大会では、近隣施設の方々と一緒に各種競技に参加しながら、気持ちの良い汗を流し、交流を深めながら楽しく過ごすことができた。

開催場所 KTXアリーナ

③人にやさしい作品展(平成30年11月3日～25日)

仲間と一緒に作品づくりを協力して行う中で、自分の役割をしっかりと担い、やり遂げることで達成感を得ることができた。また、多くの方に作品を見ていただくこともでき、作品づくりの楽しさや喜びを感じることができた。

開催場所 すいとぴあ江南

④地域・福祉施設合同納涼大会(平成30年7月21日)

事前に講師の方を招いて盆踊りを練習したことで、当日の本番では、多くの利用者が楽しく踊りに参加することができた。夕方からの行事であったが、日頃接する機会が少ない老人施設や地域の方々との交流を深めるとともに、夜店の雰囲気を楽しむことができた。

開催場所 旧ジョイフルむつみグランド

⑤地域・福祉施設合同大運動会(平成30年10月13日)

競技を楽しみ、お互いに応援し合ったり、仲間の頑張りをたたえ合ったりすることで連帯感や協調性を身につけることができた。また、競技や児童によるお遊戯を通して、地域や近隣施設の方たちと楽しく交流することもできた。また後日、風船につけて飛ばしたメッセージカードの返事が届き、運動会の楽しい思い出を振り返ることができた。

開催場所 旧ジョイフルむつみグランド

平成30年度 ときわ作業所行事等報告

月 日	行 事 等		月 日	他団体協力バザー
			4.21 ～5.6	藤まつり (奇数日参加)
5.19	県障害者スポーツ大会 (豊田市運動公園)	県社会福祉協議会	5.27 6.3	こどもフェスティバル きそがわほのぼのまつり
7.5	健康診断(移動検診車)	名古屋公衆医学研究所		
7.21	地域・福祉施設合同納涼大会	地域・福祉施設合同 行事運営委員会		
7.24	あゆみエンジョイ Summer			
8.9	水泳訓練(中止)	障害者(児)連絡協議会		
8.30	歯科検診	尾北歯科医師会		
9.15	心身障害者(児)スポーツ大会 (KTXアリーナ)	障害者(児)連絡協議会		
9.20	社会見学(竹島水族館)			
10.3	いも掘り		9.27	古知野高校文化祭
10.13	地域・福祉施設合同大運動会	地域・福祉施設合同 行事運営委員会	10.6 10.14	江南市民まつり ふくし江南ふれあいまつり
11.3 ～25	人にやさしい作品展 (すいとびあ江南)			
11.4	第38回ときわバザー	ときわ作業所・小規模 ふじの木園・あゆみ合同	11.10 ～11	収穫祭
11.14	なかよし会(KTXアリーナ)		11.25	コスモスまつり
12.21	クリスマス会			
1.18	交流会(すいとびあ江南)	ときわ作業所・小規模 ふじの木園合同	2.19 ～24	猫づくし展
2.26	健康診断	藤原医師	3.10	たけのこまつり いずみまつり
その他			事業所実習	
身体測定	12回実施		愛知教育大学	11名(8月～12月)
誕生会	12回実施		尾北看護専門学校	9名(1月～3月)
クラブ活動	12回実施			
経済活動	9回実施			
避難訓練	2回実施			
保護者会	12回実施			
医療相談	12回実施			

利用者の状況

1 市町村別

平成31年3月31日現在

出身地	性別		合計	入所前の状況		
	男	女		在宅	他施設	学校
江南市	28人	17人	45人	8人	14人	23人
一宮市	2	2	4	0	0	4
扶桑町	0	0	0	0	0	0
合計	30	19	49	8	14	27

2 障害支援区分別

平成31年3月31日現在

区分	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男	0人	1人	1人	13人	8人	7人	30人
女	0	0	6	4	9	0	19
合計	0	1	7	17	17	7	49

3 年齢別

平成31年3月31日現在

年齢	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	合計	平均年齢
男	0人	3人	15人	9人	2人	1人	30人	38.5歳
女	0	6	2	7	3	1	19	40.3
合計	0	9	17	16	5	2	49	39.2

4 月別利用状況

9/4台風のため20日⇒19日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用延べ人数	928人	1,001人	997人	974人	925人	817人
稼働日数	21日	22日	22日	22日	21日	19日
1日当たり 平均利用人数	44.2人	45.5人	45.3人	44.3人	44.0人	43.0人
契約人数	50人	50人	50人	50人	50人	50人
利用率	88.4%	91.0%	90.6%	88.5%	88.1%	86.0%

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
利用延べ人数	1,011人	971人	881人	837人	779人	957人	11,078人	923.2人
稼働日数	23日	22日	20日	19日	20日	22日	253日	21.1日
1日当たり 平均利用人数	44.0人	44.1人	44.1人	44.1人	39.0人	43.5人		43.8人
契約人数	50人	50人	50人	49人	49人	49人	597人	49.8人
利用率	87.9%	88.3%	88.1%	89.9%	79.5%	88.8%		88.0%

利用率 定員55人のところ契約人員49人 平均利用人数43.8人 利用率88.0%

年間述べ11,078人が利用

年間稼働日数 253日

5 利用料収入の前年度比較

(1) 事業所本体

	生活介護	特定費用等	金額
30年度	86,646,497円	3,603,657円	90,250,154円
29年度	89,843,818円	3,786,539円	93,630,357円
差引	-3,197,321円	-182,882円	-3,380,203円
前年比	96.4%	95.2%	96.4%

利用料収入は、台風による事業所休所日が1日増加と年度途中に1名の退所があり、3,380,203円の減収となった。

(2) 日中一時支援

	金額
30年度	134,612円
29年度	69,356円
差引	65,256円
前年比	194.1%

6 生産活動収入の状況

(1) 生産活動全体

	金額
30年度	5,470,933 円
29年度	5,791,055 円
差引	-320,122 円
前年比	94.5%

前年度に比較して、額で 320,122 円、率で 5.5%の減収であった。

(2) 内訳

① 自主作業収入

	金額
30年度	1,900,974 円
29年度	2,074,917 円
差引	-173,943 円
前年比	91.6%

② 下請作業収入

	金額
30年度	3,569,959 円
29年度	3,716,138 円
差引	-146,179 円
前年比	96.1%

自主作業収入は、前年度に比較して 173,943 円の減収であった。

下請作業収入は、前年度に比較して 146,179 円の減収であった。

7 日常生活動作能力別

区 別	性 別	男	女	合 計
		30 人	19 人	49 人
食 事	全 介 助	0	0	0
	一 部 介 助	13	13	26
	自立(見守り・声掛け)	17	6	23
排 泄	全 介 助	0	0	0
	一 部 介 助	19	11	30
	自立(見守り・声掛け)	11	8	19
生 理	全 介 助	—	0	0
	一 部 介 助	—	13	13
	自立(見守り・声掛け)	—	6	6

日中一時支援事業の状況(年間5名・延べ利用日数23日)

1 契約状況(江南市)

平成31年3月31日現在

市町村名	児童(18歳未満)		成人(18歳以上)		合計
	男	女	男	女	
江南市	2人	2人	1人	0人	5人

2 障害支援区分

平成31年3月31日現在

区分	児童(18歳未満)		成人(18歳以上)		合計
	男	女	男	女	
区分1・非該当	2人	2人	0人	0人	4人
区分2	0	0	0	0	0
区分3	0	0	0	0	0
区分4	0	0	0	0	0
区分5	0	0	1	0	1
区分6	0	0	0	0	0
合計	2	2	1	0	5

3 年齢別

平成31年3月31日現在

性別	児童		成人		合計	平均年齢
	12~15歳	16~18歳	18~19歳	20~29歳		
男	2人	1人	0人	0人	3人	15.7歳
女	2	0	0	0	2	14.5
合計	4	1	0	0	5	15.2

平成30年度 ときわホーム 事業報告書(案)

1 ときわホームの運営

設置主体 社会福祉法人 ときわ会
 経営主体 社会福祉法人 ときわ会
 事業種別 障害福祉サービス事業
 事業所名 ときわホーム「ニコット」
 所在地 江南市河野町五十間115番地
 事業内容と定員 共同生活援助(介護サービス包括型)事業 6名(現員6名)
 職員等 [職員]・正規8名・契約2名・世話人4名 計14名

職員 (単位：人)

	施設長	サービス 管理責任者	世話人	生活支援員	合計
男	※ ₁ 1	※ ₂ 1	0	※ ₃ 4	6
女	0	0	(4)	※ ₃ 4	4 (4)
合計	1	1	(4)	8	10 (4)

()内はパート職員数、別掲

※₁は、ときわ作業所及び江南市心身障害者小規模授産施設施設長を兼務

※₂は、ときわ作業所支援副主任を兼務

※₃は、ときわ作業所生活支援員を兼務

2 事業総括

利用者がホームで楽しく、充実した共同生活を送るために入浴、排せつ及び食事等の援助や相談、調理、洗濯、掃除等の日常生活上の支援を行った。

6名の利用者が良好な関係を築きながら、共同生活の役割を担い、自立した生活を送ることを目標に支援した。協力が必要な場面では6名がお互いに「声を掛け合うこと」を意識して支援した。また、ジュース用の金銭を自分で管理する取り組みなど、一人ひとりが責任を持つことができるような支援に努め、新たに自らの居室の鍵の保持も開始した。

年間を通して6名それぞれの「思い」がぶつかり合うことが日常的にあったが、その都度、支援員や世話人が傾聴し、生活のルールを見直したことで、その後の生活につなげることができた。

週末にホームを利用する利用者のために、定期的に散歩や喫茶店等への外出をしたり、ホームでの家事の幅が広がるような支援をしたことで、充実した生活を過ごすことができた。

ホームの一日の平均利用人数は4.9人で利用率は81.5%であった。利用料収入は、体調不良等により自宅で静養する外泊が多くあり、前年度に比べて額で347,525円、率では3.2%の減収であった。

事業内容

1 事業支援

利用者の環境、年齢及び心身の状況に応じた個別支援や余暇活動等を行い、ホームでの生活の充実と地域への積極的な参加を図った。

6名の利用者が良好な関係を築きながら、共同生活の役割を担い、自立した生活を送ることを目標に支援した。協力が必要な場面では6名がお互いに「声を掛け合うこと」を意識して支援した。また、ジュース用の金銭を自分で管理する取り組みなど、ひとり一人が責任を持つことができるような支援に努め、新たに自らの居室の鍵の保持も開始した。年間を通して6名それぞれの「思い」がぶつかり合うことが日常的にあったが、その都度、支援員や世話人が傾聴し、生活のルールを見直したことで、その後の生活につなげることができた。

食事は、日々の身体状況や身体測定の推移も見ながら、健康状態に応じた提供をした。また、日中活動の事業所の給食の献立と重ならないよう柔軟に対応した。特に夕食は、季節感のあるメニューを取り入れたり、誕生者のリクエストメニューを加えるなど楽しみの持てる献立に努めた。

[主な取り組み]

- ・誕生者リクエストメニュー その都度（誕生者が希望した一品）
- ・居室の鍵の保持

2 健康支援

利用者の健康管理は、日中活動の事業所の看護師と連携し、体温や血圧などのバイタルチェックを行うことで健康な生活を送ることができた。また、体調不良が見られた際には囑託医への相談や通院により、大病になることなく元気に過ごすことができた。

3 余暇支援

①外出・休日余暇活動

余暇時間や休日を利用しホーム近辺の散歩を兼ねて外出した。利用者会議等で行き先や食事について話し合い、利用者主体の計画で行うことに努めた。事前に店の場所やメニュー等の説明をしたことで、当日を迎えるまで楽しみを持って過ごすことができた。

[実施回数] 年5回実施

[主な行き先] カラオケ、ファミリーレストラン、買い物など

②誕生会

誕生者のリクエストメニューを全員で食べ、お祝いするとともに、一年間健やかに過ごせたことを皆と感謝しながら、楽しい会食時間を過ごすことができた。

[実施回数] 年6回実施

③ 季節行事

春のお花見会は、曼陀羅寺の藤まつりに出かけ、公園内を散策したり、色々な出店で昼食を兼ねた買い物を楽しんだ。秋の十五夜には、月見のお供えを飾り、夕食の時間をゆっくり楽しんだ。年末の忘年会では、ホーム関係職員も一同に集まり、一年間の思い出を語り合った。利用者によるモノマネの出し物やフォークダンスを利用者と職員が一緒になって楽しむことができた。

[実施回数] 年3回実施

4 地域生活支援

近隣施設が地域住民の方たちをお迎えし、合同で行う夏の納涼行事「地域・福祉施設合同納涼大会」へ参加した。夜間の行事だったが、保護者も一緒になって夜店の雰囲気や盆踊りを楽しむことができた。また、月2回ある不燃ごみのゴミ出しの日は、指定の収集場所で地域の方たちと挨拶を交わしながら分別処理を行った。

[実施回数] 年1回実施

[主な行き先] 旧ジョイフルむつみグラウンド

5 入院時・外泊時の支援

外泊時は、必要に応じ家庭に連絡し、本人の状態把握等を行った。

6 バックアップ施設、関係機関との連携

日常よりバックアップ施設と情報共有を図り、利用者の活動を支援する中、連携を密に行った。また、緊急時や利用者の体調不良等の場合には、日中の時間帯はときわ作業所と連絡調整し適切に対応した。

7 中期計画の平成30年度の取り組み

(1) 利用者のサービスの向上

ア 日課の見直し

利用者会議では利用者主体となり、誕生会の司会を決めたり、外出行事の行き先を決めるなど、自発性が見られるものとなった。外出活動ではホーム周辺の散歩や喫茶への外出を多く取り入れたことで、気分転換にもつながり安定した生活を送ることができた。

イ 利用者支援の見直し

体調不良や緊急時の対応職員の確認やバックアップ事業所との連携により、日中活動に支障をきたすことなく支援することができた。

ウ 支援体制の安定化

週末のホーム利用日は昨年度と比べ増加しているが、今年度新たに生活支援員と世話人が1名ずつ増えたことで、勤務体制の安定につながった。

(2) 設備等ハード面の充実

ア スプリンクラーの設置

現在の利用者の体制（6名の障害支援区分の平均3.3）での設置義務はないが、今後に備え調査研究を進め、一般的な水道連結型以外にも用途や規模に合わせて整備できるパッケージ型の自動消火設備があることなどが分かった。

平成30年度 ときわホーム 行事報告

月 日	行 事 等	月 日	関 係 団 体 行 事
4. 17	誕生会		
18	職員歓迎会		
28	曼陀羅寺花見会		
5. 27	買物外出		
7. 28	外出	7. 21	地域・福祉施設合同納涼大会 [合同行事運営委員会]
8. 28	誕生会		
9. 10	誕生会		
15	外食会		
28	花火会		
10. 13	食事会		
16	お月見		
11. 23	喫茶外出		
27	避難訓練		
12. 28	忘年会		
1. 15	誕生会		
1. 25	誕生会		
2. 15	誕生会		
3. 21	外出		
<p>[各種会議・研修・その他]</p> <p>ホーム会議 [11回実施]</p> <p>世話人会 [12回実施]</p> <p>家族会 [4回実施]</p> <p>利用者会 [12回実施]</p>			

共同生活援助事業所の状況

1 契約状況（市町村別）

平成31年3月31日現在

市町村名	性別		合計	入居前の状況			
	男	女		入所施設	通所施設	在宅	入院
江南市	0人	5人	5人	0人	0人	5人	0人
一宮市	0	1	1	0	0	1	0
合計	0	6	6	0	0	6	0

2 障害支援区分別

平成31年3月31日現在

区分	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
女	0	0	4	2	0	0	6
合計	0	0	4	2	0	0	6

3 年齢別

平成31年3月31日現在

性別	18歳未満	18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	合計	平均年齢
男	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0歳
女	0	0	0	0	3	3	0	6	48.5
合計	0	0	0	0	3	3	0	6	48.5

4 月別利用状況

共同生活援助

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用延べ人数	150人	156人	150人	159人	148人	147人
稼働日数	30日	31日	30日	31日	31日	30日
1日当たり 平均利用人数	5.0人	5.0人	5.0人	5.1人	4.8人	4.9人
契約人数	6人	6人	6人	6人	6人	6人
利用率	83.3%	83.9%	83.3%	85.5%	79.6%	81.7%

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
利用延べ人数	163人	152人	155人	133人	112人	160人	1,785人	148.8人
稼働日数	31日	30日	31日	31日	28日	31日	365日	30.42日
1日当たり 平均利用人数	5.3人	5.1人	5.0人	4.3人	4.0人	5.2人		4.9人
契約人数	6人	6人	6人	6人	6人	6人		
利用率	87.6%	84.4%	83.3%	71.5%	66.7%	86.0%		81.5%

利用率 定員6人に対し、1日平均利用人数4.9人 利用率81.5% 年間延べ1,785人が利用

年間稼働日数 365日

5 主な日中活動先

日 中 活 動 先			人数
就 労			0人
サ ー 障 害 福 祉 社	生活介護		6人
	就労移行支援		0人
	就労継続支援	A型	0人
		B型	0人
地域活動支援センター		I型	0人
		II型	0人
		III型	0人
合 計			6人

6 利用料収入の前年度比較

共同生活援助

	共同生活援助	特定障害者特別給付費	特定費用等	合計
30年度	7,720,594 円	720,000 円	1,944,000 円	10,384,594 円
29年度	8,068,119 円	720,000 円	1,944,000 円	10,732,119 円
差 引	-347,525 円	0 円	0 円	-347,525 円
前年比	95.7%	100.0%	100.0%	96.8%

平成30年度 江南市心身障害者小規模授産施設

事業報告書(案)

1 江南市心身障害者小規模授産施設の運営

設置主体 江南市
経営主体 社会福祉法人 ときわ会
事業種別 地域生活支援事業
事業所名 江南市心身障害者小規模授産施設
所在地 江南市後飛保町高瀬6番地
事業内容と定員 地域活動支援センター（Ⅲ型）
概ね15名（現員15名）
対象者 市内在住の障害者（障害支援区分の区分制限なし）
職員数 常勤5名（正規4名・契約1名）・非常勤1名 計6名

職員

（単位：人）

	施設長	事務員	指導員	合計
男	※ ₁ 1	※ ₂ 1	2	4
女			1（1）	1（1）
合計	1	1	3（1）	5（1）

（ ）内は非常勤職員数、別掲

※₁は、ときわ作業所施設長及びときわホーム施設長を兼務

※₂は、あゆみ事務員を兼務

2 事業総括

日中における生産活動の機会の提供及び食事や排せつ等の日常生活上の介護の他、創作的活動の機会を提供することにより、生活能力の向上に向け必要な支援を行った。

下請作業は、親会社の生産計画により時期による作業量の増減は見られたが、指定期日に遅れることなく仕上げることで、やりがいや責任感を養うことができた。

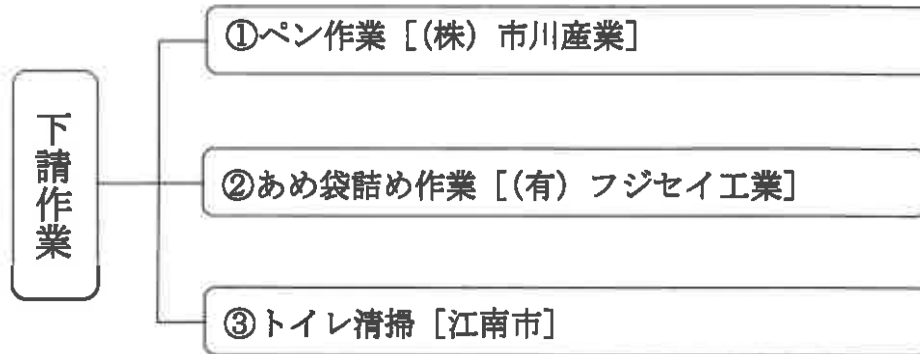
ガーデニングについては、利用者の希望や季節に合わせた草花を育て、季節を感じる事ができた。また、野菜を苗植えから収穫までの成長の過程を楽しみながら栽培し、収穫した野菜を皆で食べ達成感を得ることができた。

健康支援は、利用者の体調把握に注視しつつ、看護師による健康チェック等を行うなど、快適に過ごせるよう努めた。

給食支援は、委託業者と連携し利用者が選択できる献立や料理長の一押しメニューを取り入れ、楽しみの持てる食事の提供ができた。

施設の稼働日数は253日、平均利用人数は13.4人で利用率は89.6%であった。

3 生産活動



4 中期計画の平成30年度の取り組み

※ときわ作業所と一体で実施

生産活動報告

下請作業

①ペン作業 [(株)市川産業]

作業の種類、工程共に多い仕事であるが、個々の利用者が理解して取り組むことのできる工程も増え、丁寧かつ正確に、資材の不良がないかまで確認しながら作業に取り組むことができた。資材の受け渡しは親会社の生産予定により急ぐこともあったが、事前に施設の日程等を調整すると共に、納期に合わせるという責任感を持ち、納期に間に合うように協力して取り組むことができた。

②あめ袋詰め作業 [(有)フジセイ工業]

食品を扱う作業であるため、作業開始前の手洗いや消毒を徹底した。あめの変形等の不良品選別までを注意して行うことで「お客様が食べる物」と意識し、責任感を養うことができた。袋詰め作業の種類に応じて、あめ玉の数や色の配列に注意し、やりがいを持って作業に取り組むことができた。

③トイレ清掃 [江南市]

床や便器の汚れ取りから乾拭き、消毒と一連の流れで効率的に清掃をして衛生管理に努めた。清掃の作業工程を事前に確認することで、利用者が責任を持って取り組み清潔感を維持することができた。

創作的活動報告

1 療育活動

※ときわ作業所と一体で実施

2 文化活動

①貼り絵、絵画、ストレッチ等

※ときわ作業所と一体で実施

②ガーデニング

利用者の希望や季節に合わせた金魚草やガーベラ等の花の育成、なた豆や丘ワカメの栽培によるグリーンカーテンづくりをし、季節感や清涼感を得ることができた。さらに、トマトやナス等の野菜を苗植えから収穫までの成長の過程を楽しみながら栽培し、収穫した野菜を皆で食べ達成感を得ることができた。

3 クラブ活動

※ときわ作業所と一体で実施

その他の活動報告

※ときわ作業所と一体で実施

行事報告

※ときわ作業所と一体で実施

平成30年度 小規模授産施設行事等報告

月 日	行 事 等		月 日	他団体協力バザー
			4.21 ～5.6	藤まつり (奇数日参加)
5.19	県障害者スポーツ大会 (豊田市運動公園)	県社会福祉協議会	5.27 6.3	こどもフェスティバル きそがわほのぼのまつり
7.5	健康診断(移動検診車)	名古屋公衆医学研究所		
7.21	地域・福祉施設合同納涼大会	地域・福祉施設合同 行事運営委員会		
7.24	あゆみエンジョイSummer			
8.9	水泳訓練(中止)	障害者(児)連絡協議会		
8.30	歯科検診	尾北歯科医師会		
9.15	心身障害者(児)スポーツ大会 (KTXアリーナ)	障害者(児)連絡協議会		
9.20	社会見学(竹島水族館)			
10.3	いも掘り		9.27	古知野高校文化祭
10.13	地域・福祉施設合同大運動会	地域・福祉施設合同 行事運営委員会	10.6 10.14	江南市民まつり ふくし江南ふれあいまつり
11.3 ～25	人にやさしい作品展 (すいとびあ江南)			
11.4	第38回ときわバザー	ときわ作業所・小規模 ふじの木園・あゆみ合同	11.10 ～11	収穫祭
11.14	なかよし会(KTXアリーナ)		11.25	コスモスまつり
12.21	クリスマス会			
1.18	交流会(すいとびあ江南)	ときわ作業所・小規模 ふじの木園合同	2.19 ～24	猫づくし展
2.26	健康診断	藤原医師	3.10	たけのこまつり いずみまつり
その他			事業所実習	
身体測定	12回実施		愛知教育大学 11名(8月～12月)	
誕生会	12回実施		尾北看護専門学校 9名(1月～3月)	
クラブ活動	12回実施			
経済活動	9回実施			
避難訓練	2回実施			
保護者会	12回実施			
医療相談	12回実施			

利用者の状況

1. 利用状況

平成31年3月31日現在

出身地	性別		合計	利用前の状況		
	男	女		在宅	他施設	学校
江南市	7人	8人	15人	0人	1人	14人
合計	7	8	15	0	1	14

2. 年齢別

平成31年3月31日現在

年齢	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	合計	平均年齢
男	0人	2人	5人	0人	0人	0人	7人	34.0歳
女	0	1	7	0	0	0	8	32.8
合計	0	3	12	0	0	0	15	33.3

3. 月別利用状況

平成31年3月31日現在

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用延べ人数	279人	304人	306人	305人	279人	251人
稼働日数	21日	22日	22日	22日	21日	19日
1日当たり 平均利用人数	13.3人	13.8人	13.9人	13.9人	13.3人	13.2人
契約人数	15人	15人	15人	15人	15人	15人
利用率	88.6%	92.1%	92.7%	92.4%	88.6%	88.1%

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
利用延べ人数	314人	295人	268人	256人	261人	284人	3,402人	283.5人
稼働日数	23日	22日	20日	19日	20日	22日	253日	21.1日
1日当たり 平均利用人数	13.7人	13.4人	13.4人	13.5人	13.1人	12.9人		13.4人
契約人数	15人	15人	15人	15人	15人	15人	180人	15.0人
利用率	91.0%	89.4%	89.3%	89.8%	87.0%	86.1%		89.6%

利用率 定員概ね15人のところ契約人員15人 平均利用人数13.4人 利用率89.6%

年間述べ3,402人が利用

年間稼働日数253日

4. 生産活動収入の状況

	金額
30年度	835,824円
29年度	811,747円
差引	24,077円
前年比	103.0%

生産活動収入は、前年度に比較して24,077円の増収であった。

平成30年度 江南市在宅障害者デイサービス施設あゆみ 事業報告書(案)

1 あゆみの運営

設置主体	江南市		
経営主体	社会福祉法人 ときわ会		
事業種別	地域生活支援事業		
事業所名	江南市在宅障害者デイサービス施設あゆみ		
所在地	江南市後飛保町平野75番地2		
事業内容と定員	(1) 地域活動支援センター(Ⅱ型) 1日25名 (2) 貸館事業 随時		
対象者	地域活動支援センター(Ⅱ型) 市内在住の障害者(障害支援区分の区分制限なし) 貸館事業 障害者の介護者・障害者団体・ボランティア団体		
職員等	[職員]・常勤3名(正規3名)・非常勤8名	計	11名
	[他]・講師(日常生活動作訓練・機能回復訓練・音楽療法 和太鼓療法・書画・パソコン)	計	6名

職員 (単位:人)

	施設長 兼指導主幹	指導員	事務員	運転手	看護師	合計
男			※ ₁ 1	※ ₂ (3)		1 (3)
女	1	1 (3)			※ ₃ (2)	2 (5)
合計	1	1 (3)	1	(3)	(2)	3 (8)

() 内は非常勤職員数、別掲

※₁は、小規模授産施設事務員を兼務

※₂は、内2名はときわ作業所生活支援員補助を兼務

※₃は、内1名はときわ作業所看護師を兼務

2 事業総括

基本事業である機能訓練、社会適応訓練、創作的活動などの地域活動支援センター事業及び障害者団体等への貸館事業を行った。

地域活動支援センターの利用状況は、1名が長期入院、1名が重度化により計2名が退所され、3月31日現在で14名が契約し1日あたりの平均利用人数は8.2人であった。

事業面では、中期計画の内容に沿って軽作業の取り組み方や機能訓練を取り入れた日課を試行的に実施した結果、新たな日課の開始に向けて具体的な検討につなげることができた。設備面では、入浴リフト装置が経年劣化により修理不能となった

ため江南市との協議により取替え工事を行い、安心安全なサービスが実施できている。その他、シュレッダーと移動式ホワイトボードを整備した。移動式ホワイトボードはチョークを使用しないため呼吸機能障害のある利用者への影響もなくレクリエーション等の行事に使用できている。

また、第4回目を迎えた「あゆみエンジョイ Summer」を開催した。法人内の利用者同士の交流の場、あゆみ利用者の和太鼓発表の場として定着し、盛況に実施することができた。

合同行事としては、法人のときわバザーに参加し、利用者や地域の人々と交流を深めることができた。

事業内容

1 基本事業

① 機能訓練（5事業 125回実施）

ア 日常生活動作訓練（23回実施 179人利用）

日常生活上の身体の動作が合理的に運動できるよう、レザー製作をとおした訓練や軽運動を作業療法士の指導により月2回行った。

イ 機能回復訓練（68回実施 568人利用）

毎週金曜日と第1、第3木曜日に障害の状態や能力に応じた座位、立位、歩行訓練等の機能訓練を理学療法士の指導により行った。

ウ 家事訓練（11回実施 92人利用）

栄養バランスを考えた簡単な料理等を月1回行った。

エ 音楽療法（11回実施 84人利用）

心の癒しや機能回復の促進を図るため、講師の指導により月1回行った。

オ 和太鼓療法（12回実施 91人利用）

心の癒しや安定、機能の維持、回復の促進を図るため、講師の指導により月1回行った。

② 社会適応訓練（2事業 70回実施）

ア パソコン（48回実施 301人利用）

毎週金曜日に、自己表現や意思の伝達手段、インターネット等を講師の指導により行った。

イ ストレッチ（22回実施 160人利用）

軽運動やダンスをとおして自己の運動能力の維持、助長等を図るため、月2回行った。

③創作的活動（2事業 243回実施）

ア 書画（9回実施 64人利用）

絵画、習字をとおして自己表現や感性を磨き、手指機能の維持、回復を図るため、講師の指導により行った。

イ 軽作業（234回実施 1,682人利用）

障害の状態や能力に応じてマット編み、レザー製品作り等を行った。

④レクリエーション（12回実施 99人利用）

レクリエーション活動を月1回行った。（社会見学、スポーツ大会、カラオケ等）

⑤入浴（232回実施 1,503人利用）

家庭での入浴が困難な障害者に入浴サービスの提供を行った。

⑥送迎（930回実施 2,604人利用）

自力通所や家庭送迎が困難な障害者が、一日でも多く利用できるよう送迎を行った。

⑦介護指導（1回実施 6人参加）

消防署職員の指導のもと、異物除去の介護方法やAED（除細動器）を使った心肺蘇生法などについての講習を受けた。

⑧健康指導（357回実施 357人利用）

障害者の疾病に留意し、血圧・検温のほか状態観察、健康管理、ケア等を行った。

2 合同行事

①第38回ときわバザー

利用者の参加しやすいバザーとなるよう職員配置や模擬店内容を見直したことで、多くの利用者が施設製品や葉ボタンの販売に携わり、職員や保護者と一緒にイベントに参加することができた。会場を季節感が出るように飾り付けたり、合同行事や各施設・事業所を紹介するポップをときわ会場に提示したりすることで、雨天の中での開催とはなったが、地域の方にもたくさん参加していただき交流が深められ、ときわ会を知ってもらえる良い機会となった。

開催場所 ときわ作業所、ふじの木園、ニコット、畑

3 貸館事業

・施設利用（24回実施 271人利用）

市内の障害者団体及びボランティア団体等の施設利用に対する調整・管理を行った。

4 中期計画の平成30年度の取り組み

(1) 利用者サービスの向上

ア 軽作業、講座、日課

利用者の個々の心身の状態に合った軽作業の取り組み方として、マット編み作業の準備から完成までの工程を細かに分担することで個々に合った作業内容の見直しを行った。また、障害の重度化に対応するため身体機能の維持向上に向け、機能訓練を行う時間を取り入れた日課については、利用者の健康状態に留意しながら試行的な取り組みを継続した。実施時間や訓練内容を記録し具体的な検討につなげることができた。

イ 入浴、送迎サービス

入浴サービスでは、リフト浴・介護浴槽での介助方法等の研究を継続して取り組み、介護者の負担軽減や利用者支援の向上を図ることができた。また送迎サービスについては、介護者の体調等の事情により通所できない利用者に対し緊急時対応として増便を継続した。

平成30年度 江南市在宅障害者デイサービス施設あゆみ行事等報告

(1) 行 事

月 日	行 事 等	
4. 24	あゆみ田楽会	
7. 24	あゆみエンジョイSummer	
9. 20	避難訓練	
9. 26	社会見学 (名古屋港水族館)	
10. 9	あゆみスポーツ大会	
11. 3	人にやさしい作品展	障害者 (児) 連絡協議会
~25	(すいとぴあ江南)	
11. 4	第38回ときわバザー	
12. 11	あゆみクリスマス会	
1. 29	あゆみ新年会	
3. 14	介護教室	
3. 28	避難訓練	

(2) 視察・福祉体験学習など

月 日	内 容
5. 28	見 学 [宮田小学校2年 20名]
8. 2	福 祉 体 験 [宮田中学校2年 1名]
8. 21	実 習 [中部学院大学 1名]
10. 1	実 習 [一宮特別支援学校(生徒1名、教師1名) 2名]
10. 2	実 習 [一宮特別支援学校(生徒1名、教師2名) 3名]
10. 30	見 学 [宮田小学校2年 19名]

(3) バザー参加

月 日	他団体協力バザー
4. 28	藤まつり

利用者の状況

平成31年3月31日現在

1 利用者年齢別 (単位:人)

年 齢	男	女	計
20 歳 未 満	0	0	0
20 ～ 29	2	0	2
30 ～ 39	3	2	5
40 ～ 49	2	1	3
50 ～ 59	0	1	1
60 以 上	2	1	3
合 計	9	5	14

2 障害支援区分 (単位:人)

障害支援区分	男	女	計
6	4	3	7
5	0	0	0
4	3	0	3
3	0	0	0
2	0	1	1
1	0	0	0
非該当	2	1	3
合 計	9	5	14

3 利用日数の構成 (単位:人)

利用日数	男	女	計
20 日 以 上	6	4	10
10 ～ 19	1	1	2
1 ～ 9	2	0	2
合 計	9	5	14

1 利用者の事業別利用状況

・事業日数 239日 ・利用延べ人員 1,960人 ・1日あたりの平均利用人員 8.2人

講座名	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		
	回数	利用人員	回数	利用人員	回数	利用人員	回数	利用人員	回数	利用人員	回数	利用人員	回数	利用人員	
機能訓練	日常生活動作訓練	2	15	2	15	2	18	2	18	2	18	1	8	2	15
	機能回復訓練	6	50	5	47	6	53	5	41	6	52	6	50	6	50
	家事訓練	1	8	1	8	1	6	1	9	1	9	1	9	1	8
	音楽療法	1	8	1	9	1	8	1	8	1	7	0	0	1	8
	和太鼓療法	1	5	1	9	1	8	2	18	1	8	1	7	1	8
小計	11	86	10	88	11	90	11	94	11	94	9	74	11	89	
社会適応訓練	パソコン	4	23	3	21	5	33	4	23	5	31	4	30	4	25
	ストレッチャ	2	14	2	15	2	15	2	17	2	15	1	8	2	14
	小計	6	37	5	36	7	48	6	40	7	46	5	38	6	39
	書画	1	7	1	9	1	8	0	0	0	0	0	0	1	6
創作的活動	軽作業	19	132	21	156	21	159	20	148	20	148	16	127	22	155
	小計	20	139	22	165	22	167	20	148	20	148	16	127	23	161
	レクリエーション	1	10	1	9	1	9	1	10	1	8	1	8	1	9
入浴サービス	20	119	21	147	21	146	21	142	20	140	16	110	21	124	
送迎サービス	80	195	84	238	84	244	84	244	79	229	64	182	88	245	
更生相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
健康指導	29	29	35	35	35	35	36	36	29	29	23	23	27	27	
介護指導	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
苦情	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小計	130	353	141	429	141	434	142	432	129	406	104	323	137	405	
総計	167	615	178	718	181	739	179	714	167	694	134	562	177	694	

事業名	講座名	11月		12月		1月		2月		3月		合計		1回あたりの 平均利用状況
		回数	利用人員	回数	利用人員	回数	利用人員	回数	利用人員	回数	利用人員	回数	利用人員	
機能訓練	日常生活動作訓練	2	15	2	15	2	15	2	15	2	15	23	179	7.8
	機能回復訓練	6	53	6	55	3	22	6	48	7	47	68	568	8.4
	家事訓練	1	10	1	9	0	0	1	7	1	9	11	92	8.4
	音楽療法	1	8	1	7	1	7	1	7	1	7	11	84	7.6
	和太鼓療法	1	8	1	8	0	0	1	7	1	5	12	91	7.6
社会適応訓練	小計	11	94	11	94	6	44	11	84	12	83	125	1,014	8.1
	パソコン	4	26	4	26	2	11	4	25	5	27	48	301	6.3
	ストレッチ	2	14	2	16	1	5	2	13	2	14	22	160	7.3
	小計	6	40	6	42	3	16	6	38	7	41	70	461	6.6
	書画	1	7	1	7	1	6	1	7	1	7	9	64	7.1
創作的活動	軽作業	21	159	18	135	17	91	19	133	20	139	234	1,682	7.2
	小計	22	166	19	142	18	97	20	140	21	146	243	1,746	7.2
レクリエーション		1	7	1	7	1	8	1	6	1	8	12	99	8.3
入浴サービス		21	142	19	122	13	68	19	118	20	125	232	1,503	6.5(日)
送迎サービス		83	244	75	206	61	159	71	195	77	223	930	2,604	2.8(回)
更生相談		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
健康指導		37	37	30	30	30	30	20	20	26	26	357	357	1.0(日)
介護指導		0	0	0	0	0	0	0	0	1	6	1	6	6.0
苦情		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
小計		142	430	125	365	105	265	111	339	125	388	1,532	4,569	
総計		181	730	161	643	132	422	148	601	165	658	1,970	7,790	

2 貸館事業利用状況

月	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月	
	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員
平日利用	1	15	1	20	1	8	0	0	1	9	0	0	1	9
休日利用	1	9	2	20	1	10	1	10	1	10	1	10	1	10
合計	2	24	3	40	2	18	1	10	2	19	1	10	2	19

月	11月		12月		1月		2月		3月		合計		1ヶ月あたりの平均利用状況	
	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員
平日利用	0	0	0	0	2	17	1	8	2	12	10	98	0.8	8.2
休日利用	1	10	2	58	1	10	1	6	1	10	14	173	1.2	14.4
合計	1	10	2	58	3	27	2	14	3	22	24	271		

3 見学者等の状況

月	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月	
	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員
見学者	1	1	1	20	1	1	0	0	0	0	1	3	1	19
実習	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	5
研修・体験	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
苦情	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	1	1	20	1	1	0	0	2	2	1	3	3	24

月	11月		12月		1月		2月		3月		合計		1ヶ月あたりの平均利用状況	
	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員
見学者	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	6	45	0.5	3.8
実習	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	6	0.3	0.5
研修・体験	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.1	0.1
苦情	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	10	52		

